

競技者必携

2006

(平成18年)

質疑応答

1・00	試合の目的・競技場・用具	P 1 1
2・00	用語の定義	P 1 1
3・00	試合の準備	P 1 3
4・00	試合開始と終了	P 1 3
5・00	ボールインプレーとボールデッド	P 1 7
6・00	打者	P 1 9
7・00	走者	P 2 5
8・00	投手	P 4 1

財団法人 全日本軟式野球連盟

目次の見方 例	11	7	52
	頁	項	問

(ア) アピール

打順の誤り

二番のとき三番が打った	21	6	26
不正位打者が正当化される時	21	6	27
不正位打者に一球投げたとき盗塁	21	6	28
不正位打者が正当化され攻守交代	22	6	29

リタッチ

ジャGGLEしているときスタート	41	7	133
最初の野手に触れたときスタート	41	7	134
三塁の後方からスタート	41	7	112
触塁に帰ろうとしたとき送球がスタンドへ	39	7	116
	39	7	117

塁の空過

逆走のとき塁を空過	25	7	01
進塁した塁上で走者に触球	37	7	113
同一塁を二人の走者が空過	39	7	124
場外二塁打のとき二塁を踏んでから一塁を踏み直した	37	7	114

本塁の空過

触れ直そうとしないとき本塁に触球	35	7	92
触れ直そうとしているとき本塁に触球	35	7	93
投手が投手板についてから踏み直した	39	7	126

前位の走者が空過

後位の走者が本塁を踏んだ	37	7	110
後位の場外本塁打の打者が本塁を踏んだ	37	7	111

一塁にただちに帰塁しない

打者走者が一塁を走り越した	23	6	31
打者走者が一塁を離れた	23	6	32
	31	7	60
	31	7	61

アピール

スタンドから投げ返された球でアピール	39	7	115
走者のいない塁へ送球してアピール	39	7	118
降雨でタイム中にアピール	39	7	119
空過した走者を間違えてアピール	39	7	125

アピール権の消滅

一塁けん制のまねをしてからアピール	31	7	62
内野手が引き上げた後アピール	39	7	120
投手板についていない投手の送球を転送	39	7	122
投手板上からの送球を転送	39	7	123

第三アウトの置き換え

打者走者が三死後一塁走者の二塁空過をアピール	15	4	21
同一走者に他の類で再度アピール	39	7	121
三死後同一走者の一塁空過をアピール	39	7	127
二走者がともにリタッチが早かった	39	7	128

アピールアウトと得点

一塁空過のアピールで三死	15	4	17
二死走者一・二塁二塁走者が三塁空過	15	4	18
一死走者二・三塁外野フライで二塁走者の離塁が大きく送球でアウト	15	4	19
二死走者二・三塁打者走者が一塁空過	15	4	20
二死満塁一塁走者が二塁を空過	15	4	22
二死満塁本塁打の打者走者が二塁を空過	41	7	131
一死走者一・三塁一塁走者が二塁を過ぎ二塁を踏まずに帰塁	41	7	132

(イ)

移動したベース

走者のスランディングで定位置を離れた	31	7	58
打者走者がベースの元あった位置に達した	31	7	59

インフィールドフライ

落球して悪送球	33	7	75
打球が塁上の走者に触れた	33	7	76

打球が次塁に進んでいた走者に触れた	33	7	77
打球が塁を離れている走者に触れた	33	7	78
打球が強風で遊撃手と左翼手の間に落ちた	13	2	14
ファウル地域に落ちた後フェア地域に入った	13	2	15

(オ) オブストラクション

狭撃中のオブストラクション

走者が塁へ帰ろうとしたとき野手と衝突	27	7	26
球を持たない野手に抱きついた	27	7	27
捕球するまねをしていた野手と衝突	27	7	28
他の走者の進塁はどうなるか	29	7	29
背中に送球が当たった直後捕手と衝突	29	7	30
送球が野手の手を離れた直後衝突し球はベンチに入った	29	7	31
送球が野手の手を離れる前に衝突し球はベンチに入った	29	7	32

一塁到達前のオブストラクション

二塁でアウト後打者走者と投手が衝突	29	7	35
打者走者と投手が衝突	29	7	36
一塁でアウト後打者走者が投手と衝突	29	7	37
守備で戻ろうとした野手と走者が衝突アウト	29	7	33
打者走者が二塁を過ぎて野手と衝突	29	7	34
本塁上にいた球を持たない捕手と衝突	29	7	38

その走者にプレイが行われていないオブストラクション

打者走者が一塁を回ったとき野手と衝突	29	7	39
タッグのまねの影響でアウト	29	7	40
欲張って進塁しようとしてアウト	29	7	41
打者走者が野手と衝突して転びアウト	29	7	42
走塁妨害された後送球がスタンドに入った	29	7	43

(カ)

監督の選択権

打者は生きたが走者は進塁できなかった	23	6	40
最終回の裏決勝点となった	23	6	41
二塁打したが他の走者が塁を空過	23	6	42

(キ)

球審

球審が持つ予備球の数	13	3	01
球審に通告なしに野手が交代	13	3	05

球審のマスクに球がはさまった

三振目の球を抜き取って悪送球	17	5	13
三振目の球がはさまった	17	5	14
球審がプレーを宣告したが投手がまだ投手板についていなかった	19	5	17

(ク)

グラブ(ミット)を打球に投げつける

打球に投げ当てた	25	7	08
打者走者が三塁を過ぎ本塁まで進塁	25	7	09
本塁打性の打球に投げ当てた	25	7	10
投げつけたが打球に当たらなかった	25	7	11
走者が進塁中悪送球がスタンドに入った	25	7	12
ファウルフライの打球に投げ当てた	25	7	13

グラブ(ミット)を送球に投げつける

送球に投げ当てた	25	7	14
投手板上からのけん制球に投げ当てた	25	7	15
後逸した球にミットを投げ当てた	27	7	16

(ケ)

継続試合の場合中断前に退いた選手の出場 13 . . 3 . 02

(コ)

交代未通告のペナルティはあるか 13 . . 3 . 04
降雨で中断したときの球審の処置 13 . . 3 . 06

故意落球

ショートバウンドで捕球 19 . . 6 . 11
直接胸に当てて落とした 19 . . 6 . 12

(シ)

審判員に手をかけた 13 . . 4 . 01

試合終了の時期

一死満塁場外二塁打で試合終了 15 . . 4 . 11
一死満塁場外本塁打で試合終了 15 . . 4 . 12
場外本塁打のとき打者が追い越した 15 . . 4 . 13
場外本塁打のとき他の打者が追い越した 15 . . 4 . 14

(ス)

ストライクゾーン

投球がストライクゾーンの中で打者に触れた 23 . . 6 . 33
投球がストライクゾーンを通過して打者に触れた 23 . . 6 . 34
投球がストライクゾーンの外で打者に触れその球でタッグした 23 . . 6 . 35

(セ)

正式試合

五回の表裏が完了して中止 15 . . 4 . 05
七回表が完了し後攻チームがリードで中止 15 . . 4 . 06
七回裏二死両軍無得点で中止 15 . . 4 . 07
七回裏先攻チームがリードで中止 15 . . 4 . 08
七回裏同点となって中止 15 . . 4 . 09
七回裏後攻チームがリードして中止 15 . . 4 . 10

(ソ)

走者

本盗を踏んだ後三塁に引き返そうとした 17 . . 5 . 01
ファウルボールのとき塁に戻ろうとしない 17 . . 5 . 12

本盗した走者が投球に触れた

投球がストライクのとき 19 . . 6 . 14
投球がボールのとき 19 . . 6 . 15
塁上で二人の走者に触球 25 . . 7 . 02
塁上で前位の走者と後位の走者に交互に触球 25 . . 7 . 03
塁上で占有権のない前位の走者と後位の走者に触球 25 . . 7 . 66

送球がスタンドに入った

一二塁間に二人の走者がいた 27 . . 7 . 18
に三塁間に二人の走者がいた 27 . . 7 . 19
一塁走者は二塁を過ぎていた 27 . . 7 . 20
一塁走者は二塁に達していなかった 27 . . 7 . 21
各走者はどこまで進めるか 27 . . 7 . 22

ダッグアウト(ベンチ)に入った

投球がベンチに入った 27 . . 7 . 23
後逸した投球に野手が触れベンチに入った 27 . . 7 . 24
挟撃中走路外の走者に触球行為がなかった 31 . . 7 . 48
アウトと思いこんでダッグアウトに向かった 31 . . 7 . 50
次塁に達した走者が勘違いで戻った 32 . . 7 . 64

(タ)

打球

バウンドした投球を打った 11 . . 2 . 03
三塁塁上の走者に当たった 11 . . 2 . 04
身体はフェア地域でグラブがファウル地域の打球に触れた 11 . . 2 . 05
ファウル地域でほうきに触れた 11 . . 2 . 06
フェア地域でマスクに触れた 11 . . 2 . 13
チップの球をミットに触れ胸に当て捕球 11 . . 2 . 07
チップの球を直接胸に当て捕球 11 . . 2 . 08
フェンスの金網にはさまった 27 . . 7 . 17

打者・打者走者

三振目の球をワンバウンドで捕球 19 . . 6 . 03
走者一塁三振目の球をワンバウンドで捕球 19 . . 6 . 04
バウンドした投球をファウルチップ 19 . . 6 . 05
スリーバントを空振り捕手が後逸 19 . . 6 . 06
空振りした球が打者に触れた 19 . . 6 . 07
飛び上がって投球をバットに当てた 21 . . 6 . 16
足を打者席から踏み出してから振りした 21 . . 6 . 17
片足の踵がライン上に残って打った 21 . . 6 . 18
三振だと思ってベンチに帰りかけたが味方に注意され一塁に走った 23 . . 6 . 44
打者走者が一塁走者を追い越したとき落球 35 . . 7 . 90
本塁前のバント処理のとき捕手と打者走者が衝突 37 . . 7 . 109

打者アウト

打球が打者席の外で打者に触れた 19 . . 6 . 08
打者走者が逆走して本塁に触れた 35 . . 7 . 91

タイムの時期

投手が投球動作に入ったときタイムを要求 17 . . 5 . 15
不慮の事故でプレー続行中タイム 17 . . 5 . 16
四球を宣告されてすぐタイムを要求 23 . . 6 . 30
死球で倒れたが代走が認められるか 13 . . 3 . 03

(ト)

投手

捕手のサインを見る

投手板に触れないで見る 41 . . 8 . 01
ウィンドアップポジションで両手を合わせて見る 41 . . 8 . 02
サインを見終わって軸足をはずす 41 . . 8 . 03

投球姿勢

正規の投球姿勢 41 . . 8 . 04
ウィンドアップポジションとセットポジション 41 . . 8 . 05
軸足の投手板への正しい触れ方 41 . . 8 . 06

ウィンドアップポジション

セットポジションに移行 41 . . 8 . 07

セットポジション

セットポジションのとり方 41 . . 8 . 08
ストレッチしてセットポジションをとる 41 . . 8 . 09
ストレッチを中断 43 . . 8 . 10
身体の前ならどこで球を保持してもよいか 43 . . 8 . 11

投球動作

自由な足を一步引いてさらに踏み出す 43 . . 8 . 15
打撃姿勢を止めたので投球を中止 43 . . 8 . 18
ベンチでタイムと叫んだので投球を中止 43 . . 8 . 19

投球

バウンドしてストライクゾーンを通過 11 . . 2 . 01
バウンドして打者の足に当たった 11 . . 2 . 02
捕手の返球を受けてから20秒経過したが投球しない 43 . . 8 . 21
投球し損じの球がラインの方に転がった 43 . . 8 . 22

軸足を投手板からははずす

軸足をはずした後すぐつけて投球 4 3 . . 8 . 2 0
いつでもはずしてよいか 4 3 . . 8 . 2 4
投手板より後方にははずす 4 3 . . 8 . 2 5

塁への送球

軸足を投手板につけたまま送球 4 3 . . 8 . 2 8
球を身体の前で保持してから送球 4 5 . . 8 . 2 9
軸足を投手板上で踏みかえて送球 4 5 . . 8 . 3 4
踏みだしてから必ず送球するのか 4 5 . . 8 . 3 6
連続して二つの塁へ踏み出す 4 5 . . 8 . 3 8
二盗したので二塁へ送球 4 5 . . 8 . 3 9
三盗したので三塁へ送球 4 5 . . 8 . 4 0

投手の特例

投手板からの送球がスタントに入る 4 5 . . 8 . 4 1
ボークの送球がスタントに入る 4 5 . . 8 . 4 2
軸足をはずした送球がスタントに入る 4 5 . . 8 . 4 3
投球がベンチに入る 4 5 . . 8 . 4 4
投球が球審・捕手のマスクにはさまった 4 5 . . 8 . 4 5

投手の禁止事項

投げる手に唾液をつける 4 7 . . 8 . 4 6
異物をつけた球を投球 4 7 . . 8 . 4 7
打者を狙って投球 4 7 . . 8 . 4 8
走者がいないとき捕手以外の野手に送球 4 7 . . 8 . 4 9
各回のはじめの準備投球数は 4 7 . . 8 . 5 1

投手の交代

いつでも交代できるか 4 7 . . 8 . 5 2
先発投手の投球義務 4 7 . . 8 . 5 3
救援投手の投球義務 4 7 . . 8 . 5 4
攻守交代と投球義務 4 7 . . 8 . 5 5
投球義務の終わらない投手の続行試合 4 7 . . 8 . 5 6
投球義務の終わらない投手と特別継続試合 4 7 . . 8 . 5 7

反則投球

走者のいないときの反則投球 4 7 . . 8 . 5 8
反則投球を打って一塁に生きる 4 7 . . 8 . 5 9
反則投球が打者に触れる 4 7 . . 8 . 6 0
走者がいるときの反則投球 4 7 . . 8 . 6 1
反則投球を打って一塁に生きたが走者は進塁できなかった 4 7 . . 8 . 6 2
反則投球を打って打者走者とも進塁した 4 9 . . 8 . 6 3
安打を打ったが塁を空過してアピールアウト 4 9 . . 8 . 6 4

ボーク

静止してから首以外を動かした 4 3 . . 8 . 1 2
振りかぶってから投手板につく 4 3 . . 8 . 1 3
自由な足を上げて故意に止める 4 3 . . 8 . 1 4
打者を見ないで投球する 4 3 . . 8 . 1 6
投球を中止する 4 3 . . 8 . 1 7
投手板上で球を落とした 4 3 . . 8 . 2 3
両手を離してから軸足をはずす 4 3 . . 8 . 2 6
両手を合わせたまま投手板につく 4 3 . . 8 . 2 7
ウィンドアップポジションの右投手が三塁へ送球 4 5 . . 8 . 3 0
自由な足を塁の方向に踏み出さなかった 4 5 . . 8 . 3 1
塁へ送球してから足を踏み出した 4 5 . . 8 . 3 2
自由な足を上げただけで元の位置におろす 4 5 . . 8 . 3 3
自由な足が投手板の後縁を越えた 4 5 . . 8 . 3 5
体を先に回してから踏み出す 4 5 . . 8 . 3 7
軸足をはずして走者のいない塁へ送球 4 7 . . 8 . 5 0
球を持たないで投手板上に立つ 4 9 . . 8 . 6 5
故意四球のとき捕手席外の捕手に投球 4 9 . . 8 . 6 6
ボークが宣告される場合とペナルティ 4 9 . . 8 . 6 7

ボークの送球が悪送球 4 9 . . 8 . 6 8
監督が投手のところへ二度行く制限 4 9 . . 8 . 6 9

得点

投球前に本盗してから打者が打った 1 3 . . 4 . 0 2
満塁で死球のとき三塁走者が本塁に触れない 1 3 . . 4 . 0 3
満塁で死球の打者が一塁に触れない 1 3 . . 4 . 0 4

二死満塁四球の打者が離塁してアウトになった

アウト後走者がホームイン 2 5 . . 7 . 0 4
走者一・三塁場外本塁打のとき一塁走者が二塁に到達して引き上げた 3 1 . . 7 . 4 9
第三アウトがフォースアウト以外の得点は 3 3 . . 7 . 6 5
二死満塁場外本塁打の打者が一塁走者を追い越した 1 5 . . 4 . 1 5
一死走者一・二塁場外本塁打の打者が一塁走者とすれ違った 3 5 . . 7 . 8 9
二死満塁一塁走者が二塁走者を追い越した 1 5 . . 4 . 1 6

(ホ)

捕球

捕手がマスクで捕球 1 9 . . 6 . 0 1
捕手が胸に当ててから捕球 1 9 . . 6 . 0 2
捕手が捕球後ベンチに倒れ込んだ 2 5 . . 7 . 0 5
ダッグアウトに入り込んで捕球 2 5 . . 7 . 0 6
ダッグアウトの中で捕球した後倒れた 2 5 . . 7 . 0 7
ファウルチップの球を二塁へ送球 3 1 . . 7 . 6 3

妨害

(ボールボーイ)

送球がボールボーイに当たった 1 3 . . 3 . 0 7

(観衆)

観衆が物を投げて妨害 1 3 . . 3 . 0 8
観客席でファウルの捕球を妨害 1 3 . . 3 . 0 9
観客席でフェアの捕球を妨害 1 3 . . 3 . 1 0
競技場での捕球を妨害 1 3 . . 3 . 1 1

(ベースコーチ)

送球が偶然ベースコーチに当たった 1 7 . . 5 . 0 3
故意に送球に触れた 1 7 . . 5 . 0 4
本塁に進もうとした走者を抱き止めた 3 7 . . 7 . 1 0 4
場外本塁打で追い越しそうになった打者走者を抱き止めた 3 7 . . 7 . 1 0 5
突然本塁に走り出した 3 7 . . 7 . 1 0 6
ファウルフライの捕球を妨害した 4 1 . . 7 . 1 2 9

(審判員)

けん制球が審判員に当たった 1 7 . . 5 . 0 2
後逸した投球が球審に当たった 1 7 . . 5 . 0 5
二盗のとき捕手の送球を球審が妨害 1 7 . . 5 . 0 6
三振目を落球一塁への送球を球審が妨害 1 7 . . 5 . 0 7
三盗のとき捕手の送球を球審が妨害 1 7 . . 5 . 0 8
球審が捕手のけん制動作を妨害 1 7 . . 5 . 0 9
捕手のけん制動作を球審が妨害しランダウンプレイになった 1 7 . . 5 . 1 0
球審が捕手の送球を妨害してランダウンプレイになった 1 7 . . 5 . 1 1
フェアの打球が一塁手の後方で審判員に触れた 2 3 . . 6 . 4 3

(走者)

アウトになった走者が妨害

併殺を妨害した 1 9 . . 6 . 1 3
本塁への送球を妨害 3 7 . . 7 . 9 8
二塁への送球を妨害 3 7 . . 7 . 9 9
走者が打球処理を妨害 3 1 . . 7 . 5 1
走者が送球を妨害 3 1 . . 7 . 5 2
走者が塁上で守備を妨害 3 1 . . 7 . 5 3
挟撃中に走者が守備を妨害 3 1 . . 7 . 5 4
挟撃中に両手を高く上げて守備を妨害 3 1 . . 7 . 5 5
ファンブルした球を故意に蹴った 3 1 . . 7 . 5 6

故意に足を高く上げてスライディングした	31	7	57
トンネルした打球にすぐ後で走者が触れた	33	7	67
野手のグラブをはじいた打球に走者が触れた	33	7	68
投手を越えた打球が走者に触れた	33	7	69
イレギュラーバウンドして野手の頭上を高く越えた打球に走者が触れた	33	7	70
野手の側方を抜けた打球に走者が触れた	33	7	71
はじいた飛球が走者に触れて野手が捕らえた	33	7	72

打球がベースに当たった後

フェア地域で走者に当たった	33	7	73
ファウル地域で走者に当たった	33	7	74

併殺を防ぐため

野手に抱きついた	37	7	100
打球を蹴とばした	37	7	101
打者走者が捕手前フライの捕球を妨害	37	7	102
打者走者が一塁前フライを故意に妨害	37	7	103
打球を処理しているとき走者が衝突	11	2	10

本・一塁間の走路外で送球が当たった

他の走者に対するプレーはなかった	11	2	09
本塁に送球後打者走者が妨害した	11	2	11
妨害発生時に走者は進塁していなかった	11	2	12

(捕手)

捕手が打撃を妨害

妨害されながらも打った	23	6	36
妨害されて打てなかった	23	6	37
妨害されながらも一塁に生き走者も進塁	23	6	39
本塁の前に出て捕球	23	6	38
スクイズプレーで捕手がバットに触れた	29	7	44
スクイズプレーでバットが捕手に触れた	29	7	45
本塁突入のまねをしたとき本塁上に出た	31	7	46
本盗のとき本塁上で投球を捕球	31	7	47

(打者)

打球がバットに当たる

反転して落としたバットに触れた	23	6	45
ファウル地域のバットに触れた	25	6	46
手を離れたバットが守備を妨害した	25	6	47
折れたバットが守備を妨害した	25	6	48

打者が捕手の送球を妨害

二盗のとき打者が前へ出た	21	6	22
打者に送球を妨害されて走者がオーバーライドしてアウト	21	6	23
打者に送球を妨害されたがランダウンプレーになった	21	6	24
三振のとき打者が故意に捕手が妨害	35	7	94

打者走者が本・一塁間で守備を妨害

ライン上で捕手の送球に触れた	19	6	09
スリーフットラインの手前で送球に当たる	19	6	10
打球を処理しようとしている一塁手と衝突	35	7	88
三塁走者が本塁到達後妨害	37	7	107
三塁走者がフォースアウト後妨害	37	7	108

打者の反則行為

足を打者席外に置いて打つ

片足を打者席外に出してファウルチップ	21	6	19
ホームプレートを踏んでバント	21	6	20
片足を本塁上に踏み出して打った	33	7	79
片足を本塁の上空に出してバント	33	7	80
片足を踏み出して打ったが当たらなかった	35	7	81
片足を踏み出して投球を見送った	35	7	82

打者席を移動

投手に返球したとき打者席を移動	21	6	21
-----------------	----	---	----

本塁での守備・送球を妨害

走者が本塁へ突入したとき打者が送球を打った	35	7	83
二死のとき打者が送球を打った	35	7	84
本盗のとき打者が故意に捕手を妨害	35	7	85
四球を得た打者が本塁での守備を妨害	35	7	86
三振した打者が本塁での守備を妨害	35	7	87
二死後本塁への送球を妨害	35	7	96
一死後本塁への送球を妨害	35	7	97
スイングの余勢でミットに触れた妨害	35	7	95

違反バットの使用

違反のバットを持って打者席に入った	21	6	25
反則投球を反則打球	49	8	70
次打者席のバットにつまづいて捕球できなかった	41	7	130

(その他)

野球競技場の認定の仕方	11	1	01
エンタイトルワンベースの定めかた	27	7	25
捕手がブロックサインを出した	49	8	71
投手がブロックサインで受けた	49	8	72
野手がブロックサインを出した	49	8	73

1・00 試合の目的、競技場、用具

1【問】運動場などに野球競技場は、どのように設定したらよいか。

2・00 用語の定義

1【問】投手の正規の投球が、ワンバウンドした後に、ストライクゾーンを通過、打者はこれを見送った。どう判定したらよいか。

2【問】投手の正規の投球がバウンドした後に、これを避けようとした打者の足に当たった。どう判断したらよいか。

3【問】バウンドした投球を打者が打って飛球となり捕手が捕球した。打者アウトか。

4【問】打球が三塁に触れている走者に当たった。どう判定したらよいか。

5【問】打者が右翼線上に打ったフライを野手がグラブに触れて落球した。野手の両足は完全にフェア地域にあったがグラブに触れた位置はファウル地域であった。フェアか、ファウルか。

6【問】打球がファウル地域に置いてあったほうきに触れ、フェア地域に止まった。フェアか、ファウルか。

7【問】二ストライクの後に打者が打った球が鋭くバットをかすめて直接捕手のミットに触れ、胸に当たってから捕らえられた。どう処置したらよいか。

8【問】前問の場合、直接捕手の胸に当たり、はね返った打球を地面に触れる前に捕らえた。打者は三振アウトか。

9【問】一死走者一・三塁、打者が捕手前にゆるいゴロを打ち、本・一塁間の走路外（ラインの内側）を走って捕手からの送球を背中に当て、守備妨害の宣告を受けた。三塁走者はすでに本塁を踏んでいたが、一塁走者は二塁に達していなかった。どう処置したらよいか。

10【問】一死走者一・三塁、打者が二ゴロを打った。野手が球を捕って二塁へ送球しようとしたとき、一塁走者と衝突したので、審判員は守備妨害を宣告した。打者走者は一塁に達していなかったが、三塁走者はすでに本塁を踏んでいた。どう処理したらよいか。

11【問】無死満塁、打者は投ゴロを打った。投手は本塁に送球して、三塁走者をフォースアウトにした。捕手は素早く一塁へ送球してダブルプレーを狙ったが、ファウルラインの内側を走っていた打者走者の背中にその送球が当たってしまった。打者走者は守備妨害でアウトを宣告されたが、一・二塁の走者は妨害発生時には、それぞれ次塁に達していた。どう処理したらよいか。

12【問】前問で、一・二塁の走者が、打者走者の妨害発生の瞬間にまだ次塁に達していないときは、どう処置したらよいか。

13【問】打者の打った打球が、反転してフェア地域に落ちているマスクに触れた場合はどうか。

【答】(1) 先ず、本塁の位置（基点）を定める。

(2) 二塁を設けたい方向（東北東を理想とする）に38.795（学童部32.50）の距離を測って、二塁の位置（基点）を定める。

(3) 本塁と二塁の基点より、それぞれ左右に、27.431（学童部23）の距離を測り右側の交点を一塁の位置（基点）、左側の交点を三塁の位置（基点）とする。

(4) 本塁を基点として、それぞれ一塁、三塁の基点を通してファウルラインを引く。

(注) 地形によっては、先に本塁を基点として、一塁側または三塁側のファウルラインを定め、本塁より27.431（学童部23）の地点に一塁または三塁の基点を設け、この基点より二塁方向に27.431（学童部23）を測り、本塁より二塁方向へ38.795（学童部23.50）との交点を、二塁の位置（基点）とする。

(5) 投手版の設け方

本塁と二塁を結ぶ線を中心として、本塁より18.44（学童部16）の距離に投手版の前縁がくるように投手版を設ける。

(6) 本塁よりスタンドまたはプレーの妨げになる箇所までの距離

76.199 以上を必要とする。（理想は両翼97.534、中堅121.918）学童部の競技場は両翼70、中堅まで85とする。

【答】投球が地面に触れた後、ストライクゾーンを通過してもボールである。（2.04原注）

【答】バウンドした球であっても、避けようとした打者に当たれば死球でボールデッドとなり、打者に一塁が与えられる。（2.04原注、6.08b注4）

【答】アウトである。インフライトの投球を打ったときと同様に取り扱われる。（2.04原注）

【答】走者が塁についても、いなくても、打球がフェア地域で当たれば走者アウト。しかし、ファウル地域で当たればファウルボールである。（2.25e、7.08f）

【答】ファウルボールである。（2.32d付記）

【答】ファウルボールである。（2.32d注2）

【答】ファウルチップで三振。打者アウトである。（2.34、6.05b原注）

【答】捕手の手、またはミット以外の用具や身体に最初に触れてからはね返ったものは、例え捕らえても捕球とはならない。ファウルボールで打者は三振アウトにはならない。（2.34注）

【答】打者走者は妨害でアウト。二死となり、他の走者は投手の投球当時の占有塁である一・三塁に戻らなければならない。（2.44a原注、6.05k、7.09k）

【答】一塁走者アウト。攻撃側の妨害が、打球または打球を処理しようとしている野手に対して発生した場合は、各走者は投手の投球当時占有していた塁に戻らなければならない。二死で、三塁走者を三塁に戻し、打者には一塁を与える。（2.44a原注、7.08b）

【答】本塁でプレ-が介在（フォースアウト）した後に、打者走者が一塁に達するまでに妨害でアウトになった場合、各走者が妨害発生の瞬間すでに次塁に達していれば、その塁の占有は認められる。つまり、本塁でのフォースアウトと、打者走者の守備妨害で二死となり、走者二・三塁で再開する。（2.44a原注）

【答】三塁走者の本塁でのアウト、および打者走者のアウトは同じであるが、妨害発生の瞬間次塁に達していない場合は、妨害発生の瞬間占有していた塁、つまり一・二塁に戻す。（2.44a原注）

【答】落としていったバットに触れた場合と同様に、ボールインプレーである。（2.25注）

14【問】強風下の試合で、一死走者一・二塁、打球はやや前進守備の遊撃手後方に高く上がったが、風に押し戻されて左翼手との間に落ちた。走者はそれぞれ一個の塁を進み、打者も一塁に達した。守備側はインフィールドフライではないかと申し出た。どう処置したらよいか。

15【問】一死満塁、打者が、一塁ベース近くにフライを打ち上げた。球審は『インフィールドフライ』を宣告したが、打球は風に流され、野手に触れずにファウル地域に落ちたあと、一塁ベース付近のフェア地域に入った。それを見た三塁走者は本塁を突いたが、一塁手からの送球でタッグアウトとなった。これでよいか

3・00 試合の準備

1【問】球審は、試合中何個くらい球を予備に持ったらよいか。

2【問】特別継続試合では中断前にいったん試合から退いた選手は出場できるか。

3【問】打者が死球で倒れ一塁に走れなかった。打順表に記載されている選手の中から代走を出せないか

4【問】攻守交代のあと、球審に通告しないで選手の交代が行われていたのを回の途中で気が付いた。ペナルティはあるか。

5【問】攻守交代となったとき、通告なしに右翼手がAからBに代わっていた。攻撃側はその回の第一打者がフライでアウトになったところで抗議、通告なしで代わっていたのだから、今のアウトは無効だと主張した。どう処置したらよいか。

6【問】試合が降雨のため一時中断した。球審はどのような処置をとればよいか。

7【問】一死満塁、打者は外野へ安打した。外野手は三塁走者に続き本塁へ走る二塁走者をアウトにしようと送球したが大きくそれて次打者席の近くでボールボーイに当たった。どう処置したらよいか。

8【問】観衆が物を投げて守備を妨害した。どう処置したらよいか。

9【問】野手がファウルフライを追って観客席に手を伸ばして捕ろうとしたとき、観衆が野手のグラブをたたいて妨害したので、捕ることができなかった。観衆の妨害で打者はアウトではないか。

10【問】前問で外野に打たれたフェアフライの場合は、どうなるのか。

11【問】前問のような場合に、観衆が身体を競技場の方へ乗り出して、野手が競技場内で捕らえようとしている球をはたき落とした。どう処置したらよいか。

4・00 試合開始と終了

1【問】野手が、審判の判定に異議を唱えて抗議したが受け入れられなかったので、エキサイトして審判員に手をかけた。どう処置したらよいか。

2【問】二死満塁、打者のカウントが二 - 三となったので、走者は一斉にスタートした。三塁走者は投手の投球が終わらない前に本塁に滑り込んだが、この投球を打者が打って三ゴロとなり、一塁でアウトになった。三塁走者の得点は認められるか。

3【問】最終回の裏、同点で二死満塁、打者が死球で一塁が与えられたので、決勝の得点となる三塁走者は本塁に向かったが、途中で試合終了の整列のため、ベンチから飛び出してきた味方のプレーヤーと勝利の感激のあまり抱き合っただけで本塁に触れなかった。どう処置したらよいか。

4【問】前問で、三塁走者は本塁に触れたが、打者走者が一塁に触れずに一塁の手前から引き返して整列した。どう処置したらよいか。

【答】申し出は受けられない。特に強風下でのインフィールドフライの宣告は早まってはならない。内野手が落下する打球を捕らえる構えをとり、しかも容易に捕らえることができると判断したときに宣告するようにしなければならない。このケースでは、宣告を遅らせ、打球の最終判断(ヒット)をした審判員の処置は正しい。なお、インフィールドフライは、審判員が宣告しなければ適用されない。(2.40)

【答】この処置は正しい。打者はインフィールドフライでアウト。本塁でのアウトも認められ攻守交代となる。(2.40付記)

【答】少なくとも、二個の球を予備に持たなければならない。(3.01e)

【答】出場できない。しかし、アマチュア野球では試合から退いた選手がベースコーチとなることを認めている。(3.03注、4.12d準用、連盟特別規則3-4(3))

【答】原則としては、試合に出場している選手の代走は許されない。しかし、連盟ではコーティシーランナー(相手の行為で適宜に許される代走)を認めている。なお、代走は当該走者の前の打順(投手は除く)の者とする。(3.04原注、連盟特別規則(8))

【答】ペナルティはない。しかし、監督は選手の交代があった場合は、直ちにその旨を球審に通告しなければならない。また、二人以上同時に交代する場合は、合わせて打順も明示しなければならない。(3.08a、3.06)

【答】プレーは有効である。抗議は受け入れられない。(3.08a、b)

【答】球審はプレーを中断した後、少なくとも三十分を経過するまでは、試合の終了を命じてはならない。試合完了の見通しがあれば、球審は一時停止を再度繰り返しても、試合を完了するよう努力しなければならない。(3.10c原注)

【答】ボールボーイを含み、競技場内に入ることを許されている人に当たったときは、その行為が故意でない限りボールインプレーで成り行きである。(3.15)

【答】妨害と同時にボールデッドとなる。審判員は、もし妨害がなかったらどのようになったかを判断して、ボールデッド後の処置をとる。(3.16)

【答】野手は危険を承知でプレーしているので、妨害とはならずファウルボールである。(2.15原注、3.16原注)

【答】観衆の妨害とはならずホームランである。(3.16原注)

【答】観衆の妨害でボールデッドとなり、打者をアウトにする。(3.16付記、2.44d)

【答】その野手を退場させる。(4.06a4、連盟取り決め事項9(7))

【答】得点は認められない。(4.09a付記(1))

【答】三塁走者が、適宜な時間がたっても本塁に触れなかったときは、球審は、三塁走者にアウトを宣告して、試合続行を命ずる。(4.09bペナルティ)

【答】前問同様、球審は、一塁に触れない打者走者にアウトを宣告し、得点を認めないで試合続行を命ずる。(4.09bペナルティ)

- 5【問】五回の表裏が完了したとき、試合が中止された。正式試合になるか。
- 6【問】七回表を終わって、後攻チームが一对0でリードしていたとき試合が中止された。正式試合となるか。
- 7【問】両チーム無得点で、七回の裏、後攻チームの攻撃が二死となったとき試合が中止された。正式試合となるか。
- 8【問】先攻チームが一对0でリードしていた七回裏、後攻チームが無得点で二死となったとき試合が中止された。正式試合となるか。
- 9【問】七回表まで先攻チームが一对0でリードしていたが、七回裏、後攻チームが一点得点して無死のとき、試合が中止された。正式試合となるか。
- 10【問】前問のとき後攻チームが二点得点したときはどうなるか。
- 11【問】0 - 0で迎えた最終回の裏、一死満塁で打者がワンバウンドで外野フェンスを超える二塁打を打った。試合終了の時期と得点はどうなるか。
- 12【問】Aチームに四対三と一点リードされていたBチームが、九回裏、一死満塁から打者が場外本塁打を打った。Bチームの得点および試合終了の時期はいつか。
- 13【問】Aチームに、三対二と一点リードされていたBチームが、九回裏、一死満塁から打者が場外本塁打を打った。しかし場外本塁打を打った打者が、一・二塁間で一塁走者を追い越したので、審判員は『追い越しアウト』を宣告した。両チームの得点および試合終了の時期はいつか。
- 14【問】Aチームに、五対四と一点リードされていたBチームは、九回裏、無死満塁から打者が場外本塁打を打った。しかし、一塁走者が三・本塁間で、前位の走者を追い越しアウトとなった。両チームの得点および試合終了の時期はいつか。
- 15【問】二死満塁、場外本塁打した打者走者が一塁を過ぎたところで、一塁走者を追い越してアウトとなった。そのとき三塁走者は本塁を踏んでいなかった。得点になるか。
- 16【問】二死満塁、打者走者が場外本塁打を打った。三塁走者は本塁を踏んだが、その直後一塁走者が三・本塁間で二塁走者を追い越し三死となった。この場合の得点は何点か。
- 17【問】一死走者一・三塁、打者が右翼へ安打したので三塁走者はホームインしたが、一塁走者は三塁への送球でアウト、二死となった。この間に打者走者は二塁に達したが、一塁を踏まなかったので一塁でアピールされて打者走者はアウトとなり、三死となった三塁走者の生還は認められるか。
- 18【問】二死走者一・二塁、打者がランニング本塁打を打ち三走者が本塁を踏んだが、二塁走者は三塁を踏まなかったのでアピールされてアウトになり三死となった。この場合の得点は記録されるか。
- 19【問】一死走者二・三塁、打者は左翼フライで二死となったが、三塁走者は生還した。左翼手は二塁走者が帰塁する前に二塁へ送球、第三アウトとした。この場合得点となるか。
- 20【問】二死走者二・三塁、打者への四球目の投球が暴投となった。三塁走者は本塁を踏み、二塁走者は三塁へ、打者は一塁に二塁に進んだ。しかし、打者が一塁を踏まなかったので守備側からアピールがあり第三アウトとなった。この場合得点となるか。
- 21【問】二死走者一塁、打者が右中間を抜く安打を打った。打者走者は三塁を過ぎ、さらに本塁を狙ったが外野手からの送球で三死となった。しかし、一塁走者は二塁を空過していたので守備側からアピールがあり、審判員はこのアピールを認めアウトを宣告した。得点となるか。
- 22【問】二死満塁のとき、打者が左中間に長打したが、三塁直前でアウトになり三死となった。二・三塁の走者は生還したが、一塁走者は二塁空過をアピールされ、審判員はこのアピールを認めアウトとした。得点は何点か。

【答】正式試合となる。ただし、連盟の大会では特別規則として五回を七回とすることに定めてあるから、正式試合とならない。(4.10c(1) 連盟特別規則1-1(1))

【答】七回を完了していないが正式試合となる。一对0で後攻チームの勝ち。(4.10c(2) 連盟特別規則1-1(1) 3)

【答】七回が完了していないから正式試合とはならない。(4.10c(1) 連盟特別規則1-1(1) 3)

【答】七回が完了していないから正式試合とはならない。(4.10c(1) 連盟特別規則1-1(1) 3)

【答】七回を完了していないが正式試合となる。一对一の対ゲーム(4.10c(3) 連盟特別規則1-1(1) 3)

【答】正式試合となる。二対一で後攻チームの勝ち。(4.10c(2) 連盟特別規則1-1(1) 3)

【答】勝ち越し点にあたる走者が得点したときに試合が終了する。したがって一对0で後攻チームの勝ちとなる。(4.11c)

【答】本塁打を打った打者が本塁に触れたときに試合は終了する。Bチームの得点は七点。(4.11c 付記1)

【答】四対三でBチームの勝ち、勝ち越し点になる走者が得点したとき、すなわち二塁走者が本塁に触れたときに試合は終了する。(4.11c 付記2)

【答】七対五でBチームの勝ち、打者走者が本塁に触れたときに試合は終了する。(4.11c 付記2注)

【答】追い越し以前に本塁を踏んでいなければ得点にならない。(4.09a注1、7.08注1)

【答】一点である。(4.09a注2、7.08h)

【答】第三アウトが、打者走者が一塁に達するまでのアウトであるから認められない。(4.09a付記(1) 原注)

【答】第三アウトがフォースアウトであるから、得点は記録されない。(4.09a付記(2)、7.10b)

【答】二塁走者のアウトはフォースアウトではないから、三塁走者は第三アウトよりも早く本塁を踏んでいれば得点となる。(4.09a原注規則説明〔例〕)

【答】第三アウトが、打者が一塁に達するまでのアウトであるから認められない。(4.09a付記(1)、7.10b)

【答】一塁走者の二塁空過のアピールを審判員が認めた場合は、このアウトを先の第三アウトと置き換えることができるので得点とはならない。このような場合、審判員は必ず記録員に知らせなければならない。(4.09a付記(3) 7.10後段)

【答】二塁のアピールアウトはフォースアウトとなるので、得点は記録されない。(4.09a付記(2)、7.10b)

2 3 【問】八回までAチームに二対一と一点リードされていたBチームは、九回表さらに一点を追加された。九回の裏得点をしないまま一死で試合が中止された。得点はどうか。

2 4 【問】七回までBチームに五対三とリードされていたAチームは、八回表一点を取ったところで試合が中止された。得点はどうか。

5・00 ボールインプレーとボールデッド

1 【問】一死走者三塁、打者が左翼へフライを打った。三塁走者は二死と思って本塁を踏んだが、一死であることに気付いて三塁に引き返そうとしたとき、落球した左翼手は三塁に送球して走者を三・本間で挟殺した。この間打者走者は三塁まで進んだが、このままでよいか。

2 【問】走者一塁、投手からの牽制球が悪送球となったが、後ろに位置していた一塁塁審に当たったため二塁に進塁することができなかった。攻撃側から塁審に当たらなければ当然二塁に行けたのだから、二塁を与えるべきだと主張してきた。どう処置したらよいか。

3 【問】走者一塁、打者は右翼線に安打した。一塁走者が三塁に向かったので、右翼手は三塁に送球したが、コーチボックス内のベースコーチに当たって、球が横にそれたため走者は生還、打者走者は二塁に達した。守備側からベースコーチの妨害だと申し出があった。どう処置したらよいか。

4 【問】前問でベースコーチが故意に送球を妨害した場合はどう処置したらよいか。

5 【問】走者三塁のとき、投球を捕手が後逸、球は球審に当たった。三塁走者は本塁を突いたがアウトとなった。攻撃側は、投球が球審に触れたからボールデッドで、走者生還ではないかと申し出た。どう処置したらよいか。

6 【問】一塁走者が二盗を試みた。捕手は送球しようとしたが、球審のプロテクターに触れて送球ができなかった。どう処置したらよいか。

7 【問】一死走者二塁、三振目の球を捕手が落球し一塁に送球しようとしたとき、球審のプロテクターに触れて悪送球となった。守備側から球審の妨害で打者アウトではないかと申し出てきた。どう処置したらよいか。

8 【問】走者二塁、打者三振の時二塁走者は三盗を試みた。捕手がこの走者を刺そうとして送球しようとしたが球審が妨害した。どう処置したらよいか。

9 【問】一塁走者のリードが大きいので、捕手が一塁へ送球するとき、球審に触れ悪送球となったので、走者は二塁へ進んだ。どう処置したらよいか。

1 0 【問】一塁走者のリードが大きいので捕手が一塁へ送球したとき球審の妨害があった。その送球で走者が追い出されてランダムプレーとなった。しかし野手の悪送球で走者は三塁に進塁した。どう処置したらよいか。

1 1 【問】一塁走者が二盗のとき、捕手は球審に妨害されながらも二塁へ送球した。走者は途中から一塁の方へ戻りかけランダムプレーとなったが野手の失策により走者は二塁に生きた。どう処置したらよいか。

1 2 【問】ファウルボールが打たれたとき、塁を離れた走者が塁に戻ろうとしないので再三注意したがなかなか戻らなかった。どう処置したらよいか。

1 3 【問】無死走者一・二塁、二ストライク後の投球を打者が空振り、球は球審のマスクに挟まった。捕手が抜き出したその球を一塁に送球したが悪送球となり、一・二塁の走者はいずれも生還、打者走者は二塁に達した。どう処置したらよいか。

1 4 【問】一死走者二・三塁、打者はカウント2 - 1から空振り、球は直接審判員のマスクに挟まった。どう処置するか。

1 5 【問】投手が投球動作に入ったとき、攻撃側ベンチから『タイム』の要求があったが、投手は投球しストライクとなった。攻撃側は『タイム』を要求していたからストライクは無効であると申し出た。

【答】連盟では、均等回の得点で勝敗を決するので、八回までの得点、二対一でAチームの勝ちとなる。(連盟特別規則1-3)

【答】七回までの得点、五対三でBチームの勝ちとなる。(連盟特別規則1-3)

【答】フライが捕らえられなかったので、リタッチする必要がない。たとえ勘違いであっても、いったん本塁を踏めば得点となる。したがって、挟殺によるアウトは無効であり、打者走者の進塁も認められる。このような場合、審判員は得点している三塁走者を直ちにプレーから除かなければならない。(5.06原注)

【答】送球が審判員に触れてもボールインプレーである。したがって走者はそのままである。(5.08)

【答】送球が偶然ベースコーチに触れたのであるから、ボールインプレーで成り行きである。(5.08)

【答】本塁に進んだ走者はアウト。打者走者は送球がなされたときにすでに占有していた塁に戻す。(5.08、補足(c) 2.44 a)

【答】投球が球審に当たっても、ボールインプレーであるから三塁走者はアウトである。(5.08)

【答】盗塁を防止しようとする捕手の送球動作を球審が妨害したのであるから、ボールデッドとなり走者を一塁に戻さなければならない。しかし、このようなプレーがあっても走者が二塁ベース直前に達しているときは、この規則を適用しないでボールインプレーとする。(5.09 b、審判上の取り決め事項9-2)

【答】捕手の送球動作を球審が明らかに妨害したことになるので、ボールデッドとして、二塁走者を元の塁に戻し、打者はアウトとする。(5.09 b)

【答】盗塁を防止しようとした捕手の動作を妨害したのであるから、ボールデッドとなり走者を二塁に戻す。(5.09 b)

【答】球審が捕手のけん制のための動作を妨害したのであるから、ボールデッドとし走者を一塁に戻す。(5.09 b)

【答】ランダムプレーが始まろうとしたら、球審は直ちに『タイム』を宣告して、走者を元の塁に戻す。(5.09 b)

【答】ランダムプレーが始まろうとしたら、球審は直ちに『タイム』を宣告して、走者を元の塁に戻す。(5.09 b)

【答】球審は嚴重に注意し、その走者が戻って塁に触れてから試合を再開する。(5.09 e)

【答】無死または一死で走者一・二塁(一塁、一・二塁、満塁のときも同様)のとき、打者の三ストライク目の球が球審のマスクに挟まったときは、打者アウト。ボールデッドで各走者はそれぞれ一個進塁させる。したがって一死で走者二・三塁とする。(5.09 g、6.05 c注、7.05 i)

【答】ボールデッドで打者は一塁に、二塁走者は三塁へ、三塁走者は本塁へそれぞれ進塁させる。つまり一点が入り一死走者一・三塁で再開する。(5.09 g、7.05 i)

【答】投手が投球動作に入ったら『タイム』の要求はできない。なお、『タイム』となるのは、『タイム』を要求したときではなく、審判員が『タイム』を宣告してときである。(5.10 d注)

16【問】プレーの進行中、プレーヤーが緊急に治療を要するような不慮の事故が起きた。審判員は直ちに『タイム』を宣告してもよいか。

17【問】ボールデッド中に、投手が新しい球を持って投手板近くに来たとき、球審はプレーを宣告した。投手は投手板を踏まないまま一塁に送球して走者をアウトにした。このプレーは有効か。

6・00 打者

1【問】捕手がファウルフライをマスクで受け止めた。アウトか。

2【問】捕手が、フライを胸に当ててからミットで捕らえた。アウトか。

3【問】二死走者ないとき、打者はカウント2 - 3からワンバウンドの投球を空振りして一塁へ走った。捕手はこの球をミットに収めたので、そのまま攻守交代のためベンチの方へ帰りかけた。どうなるか。

4【問】一死走者一塁のとき、前問のようなプレーが起きたらどうなるか。

5【問】一死走者一塁、打者が2ストライク後のワンバウンドの球をファウルチップした。アウトになるか。

6【問】無死走者二塁、打者はカウント2 - 2からスリーバントを行った。バットに球は当たらなかったが捕手が後逸した。打者走者は一塁へ、二塁走者は三進した。このとき守備側からスリーバント失敗で打者アウトではないかと申し出があった。どう処置したらよいか。

7【問】一死走者二・三塁、打者はカウント2 - 3から次の投球を空振り、球が打者の身体に触れてバックネットの方に転がった。走者はいずれもホームインしたが守備側から、今のはファウルボールではないかと申し出があった。どう処置したらよいか。

8【問】一死走者三塁のとき、スクイズプレイが行われた。打球は打者席を出たところで打者走者の足に当たった。球審は三塁から本塁へ突入してきた走者をアウトにしたが、この処置は正しいか。

9【問】打者が一塁方向にゆるいゴロを打った。これを捕らえた捕手が一塁に送球したが、本・一塁間後半のライン上を走っていた打者走者の左腕に当たった。どう処置したらよいか。

10【問】無死走者二・三塁でスクイズプレイが行われ、投ゴロとなったが三塁走者は生還。投手からの送球を受けた捕手は直ちに一塁へ送球したが、スリーフットレインの手前で打者走者に当たり、転々としている間に二塁走者もホームインし、打者走者も一塁に生きた。どう処置したらよいか。

11【問】一死走者一塁、打者は二塁へ小フライを打った。二塁手が捕球寸前に一歩退いてショートバウンドで球を捕らえ、4 - 6 - 3の併殺が成立した。攻撃側から故意落球で打者アウトではないかと申し出があった。どう処置したらよいか。

12【問】一死走者一塁、打者が二塁へ小フライを打った二塁手は打球を胸に当て落球したあと、その球を拾って二塁、一塁と転送し併殺を行ったが、故意落球で打者アウトではないか。

13【問】無死走者一塁、二ゴロをとった二塁手は遊撃手に送球して走者を二塁でフォースアウト。遊撃手はさらに一塁へ転送しようとしたが、二塁でアウトになった走者が遊撃手の身体に抱きついたので、一塁に送球することができなかった。どう処置したらよいか。

14【問】二死走者三塁、打者のカウント2 - 3、次の投球のとき三塁走者は本盗を行い投球に触れた。この球はストライクだった。どう処置したらよいか。

15【問】前問で、走者二・三塁の場合、打者への投球がボールのときはどう処置したらよいか。

【答】差し支えない。もし人命にかかわるような事故は、ルール適用以前のことであり、即時適切な処置をとるべきである。なお、審判員は協議の上、走者は、『タイム』を宣告しなければ達しただろうと推定する塁まで進塁させる。(5.10c、h)

【答】無効である。『プレー』再開の条件は、投手が球を持って投手板に触れ、球審がプレーを宣告したときであり、この条件を充たしていないのでプレーは無効とし、改めてプレーを宣告する。(5.11)

【答】アウトではない。手またはミット以外のものを用いて捕らえたものは捕球とはならない。(6.05b原注)

【答】アウトである。(6.05b原注、2.15注)

【答】投球がワンバウンドして地面に触れているから、捕手のミットに収まっても正規の捕球とはならない。したがって打者をアウトにするためには打者にタッグするか、一塁へ送球しなければならない。(6.09b原注、6.05b原注、2.04原注)

【答】無死または一死で、走者が一塁(一・二塁、一・三塁、満塁のときも同様)にいるときは捕手が『正規の捕球』をしなくても自動的に打者はアウトになる。(6.05c注)

【答】ワンバウンドの球でも打者のバットに触れたものは、バウンドしないときと同様に取り扱う。したがってファウルチップで打者三振である。(6.05b原注、2.34、2.04原注)

【答】スリーバントして、ファウルボールになったときは打者はアウトになるが、バットに当たらないときは普通の空振りと同様でボールインプレーである。したがって走者一・三塁となる。(6.05d、2.72a、d注関連)

【答】打者は三振でアウト。ボールデッドとらり走者を元の塁へ戻す。(6.05f、5.09a)

【答】三塁走者をアウトにしたのは誤りである。打者の両足が完全に打者席を出たところで打球に当たれば、打者アウトで走者を三塁へ戻す。しかし、片足が打者席に残っているときは、ファウルボールである。(6.05g、2.32注1関連)

【答】ライン上は走路に含まれるから守備妨害とはならない。したがってボールインプレーで成り行きとなる。(6.05k)

【答】スリーフットレインより本塁寄り、つまり本・一塁間の前半で送球が打者走者に当たっても妨害とはならないので、ボールインプレーである。(6.05k関連)

【答】『故意落球』というのは、野手が打球を手、またはグラブに触れて落とした場合に限られる。したがってこの場合の二塁手のプレーは認められ併殺は成立する。(6.05-1付記)

【答】手または、グラブ以外の身体に触れたときは、故意落球とはならない。したがってボールインプレーである。(6.05-1注1)

【答】併殺を成し遂げるために送球しようとしているピポットマン(球を継送するプレーヤー)を、すでにアウトになった走者が妨害したので、打者走者もアウトにする。(6.05m、7.09f)

【答】打者には『第三ストライク』を宣告してアウトとし、走者の得点は認められない。しかし、無死または一死であれば打者をアウトとしボールデッドとなるが得点は認められる。この場合、他の塁の走者は次塁への走塁行為があったかどうかに関係なく、一個の進塁が許される。(6.05n、5.09h)

【答】ボールデッドとなり、打者は四球で一塁、三塁走者の得点は認められる。二塁走者は盗塁の行為がなくても三塁へ進ませる。(6.05n関連、5.09h)

16【問】一死走者三塁のとき、スクイズプレーが行われた。投球が高かったため打者は飛び上がってバットに当て成功させたが、地面についたとき両足とも完全にバッテースボックスの外だった。どう処置したらよいか。

17【問】カウント1 - 2から打者は次の投球のとき、左足を完全にバッテースボックスの外に踏み出して、空振りした。反則打球か。

18【問】打者が打った瞬間、ステップした足のかかとがバッテースボックスのライン上にあった。反則打球か。

19【問】一死一塁のとき、ヒット・エンド・ランが行われた。打者は片足をバッテースボックスの外に出して打った。ファウルチップとなったので、捕手が二塁へ送球したが走者はセーフとなった。このままでよいか。

20【問】無死走者一塁のとき、バント・エンド・ランが行われた。一塁走者は二塁へ走り、打者はホームプレート上に片足全部をのせてバントしたが、ファウルボールとなった。どう処置したらよいか。

21【問】打者のカウント2 - 0、捕手から投手に返球されたときに打者は右から左のボックスに移った。打者はアウトか。

22【問】一塁走者が二盗のとき、打者がバッテースボックスの前に出たので捕手は二塁へ悪送球した。どう処置したらよいか。

23【問】一塁走者が二盗したとき、捕手は打者に妨害されながらも二塁へ送球した。走者はオーバースライドして捕手からの送球でタグされてアウトになった。このとき攻撃側から、二塁へ達した後のアウトだから、打者をアウトにして走者を一塁へ戻すのではないかと申し出があった。どう処置したらよいか。

24【問】一塁走者が二盗のとき、捕手の送球を打者が妨害したが、一・二塁間でランダウンプレーとなり、野手が悪送球する間に走者は三塁に達した。どう処置したらよいか。

25【問】打者が違反のバットを持って打席に入った。どう処置したらよいか。

26【問】無死走者一塁、二番打者が打つところを三番打者が打って、三塁打を放ち一塁走者は得点した。このとき守備側から打順が違おうとアピールしてきた。どう処置したらよいか。また、次の打者は誰か。

27【問】五番打者が打つところを六番打者が打って二塁打した。次に五番打者がバッテースボックスに入ってカウント1 - 2のときに、守備側からアピールがあった。どう処置したらよいか。

28【問】無死、二番打者が打つべきところを四番打者が打って安打した。続いて二番打者がバッテースボックスに入り、一球目のストライクのとき走者は二盗に成功した。ところがそのとき守備側から打順の誤りについてアピールがあった。どう処置したらよいか。

【答】打者が、打者席を離れて飛び上がっている間に、バットに当てたのであるから反則打球とはならない。しかし、打者が片足または両足の全部をバッテースボックスの外へ完全に踏み出して、しかも地面につき、投球にバットを当てた場合は反則打球となる。(6.06 a 関連)

【答】打者が足をバッテースボックスから出して打っても、バットに球が当たらない限り反則打球とはならない。(6.06 a 原注関連)

【答】バッテースボックスのラインは、ボックスの一部であるから、足を完全にラインの外に出して打たない限り反則打球とはならない。(6.06 a 関連)

【答】反則打球で打者アウト。二死となりボールデッドで走者を一塁に戻す。(6.06 a、5.09 d)

【答】反則打球で打者はアウトとなる。走者を一塁へ戻す。(6.06 a)

【答】アウトではない。しかし、投手がプレートについて捕手からのサインを見ているときに他方のバッテースボックスに移れば、打者はアウトとなる。(6.06 b 関連)

【答】打者が妨害をしたので二塁へ悪送球したと球審が判断した場合は、打者をアウトとし走者を一塁に戻す。(6.06 c)

【答】一塁走者はアウトでボールインプレーである。なお、オーバースライドの場合でも、二塁の近くでしかも連続したプレーでタグされアウトになったのであれば、妨害は無かったものとする。(6.06 c)

【答】ランダウンプレーが始まろうとしたら、球審はただちに『タイム』を宣告して、打者を妨害によるアウトにして走者を一塁に戻す。(6.06 c 注2)

【答】違反のバットには次の二種類があり、処置も違ってくる。

1. 太い部分が7センチ、長さが106.7センチを超えるもの。
先端をえぐったバット(カップバット)で、えぐった部分が深すぎたり、くぼみの断面が椀状でないもの。
バットの握りの部分に握りやすくするため、なにかを付着することは許されるが、グリップの端から45.7センチを超えて加工をしたもの。
この各項に抵触するバットを使用しても、打者をアウトにすることはできない。また、打撃中であれば適合バットに取り替えさせる。(1.10付記)
2. 打者がいかなる方法であろうとも、球の飛距離を伸ばしたり、異常な反発力を生じさせるような改造、加工したと審判員が判断するバット。
打者がこのようなバットを使用したときは勿論、使用しようとしたときも、打者は反則行為でアウトになる。(6.06 d)
「連盟では、審判員が試合開始に先立って両チームの用具を点検して、違反のバット、公認でない金属バットなどを取り除く。」(審判員に関する取り決め事項2-6)

【答】二番打者が打つべきところを三番打者が打ったのであるから二番打者はアウトとなり、三番打者の打撃行為で本塁へ進んだ走者の得点は認めず一塁へ戻す。したがって一死走者一塁で三番打者が再び打者となる。(6.07 a、b、d)

【答】五番打者を抜かして打った六番打者の打撃が完了して、次に出てきた五番打者に一球を投じたときにアピール権はなくなり、六番打者の打撃行為は正当化される。したがって次の打者は七番打者となり、五番打者のカウント1 - 2を引き継いで打席に入る。(6.07 c、d)

【答】四番打者の安打は、次打者へ一球投げたことによって正当化される。次の打者は五番打者で、二番打者のカウント1 - 0を引き継ぐ。なお、盗塁行為は打順の誤りと関係なく正規の進塁である。(6.07 a、b付記、c、d)

- 29【問】二死満塁、五番打者が打つところを、七番打者が打って三塁打となり三点を記録した。次に六番打者がバッターボックスに入り一球が投げられた。
その後
(1) 三塁打した七番打者が、投手の牽制球でアウトとなり攻守交代した。
(2) 六番打者が外野フライを打ってアウトとなり、攻守交代した。
上の1、2の場合、誰が次回の第一打者か。またその理由は。
- 30【問】打者が四球を得、二・三歩バッターボックスを離れたところでタイムを要求した。審判員は直ちに『タイム』を宣告してもよいか。
- 31【問】四球を得た打者が、一塁に触れて走り越し塁に戻ろうとしたとき、捕手から一塁に送球されてタッグされた。どう処置したらよいか。
- 32【問】四球を得た打者が一塁に触れたのち、タイムを要求しないで塁を離れてベースコーチと話していたので投手から一塁へ送球されてタッグされた。どう処置したらよいか。
- 33【問】打者はホームプレートにかぶさって構えていた。投球はストライクゾーンで打者に触れた。どう判定したらよいか。
- 34【問】投球がストライクゾーンを通り、大きく曲がって打者に触れた。どう判定するか。
- 35【問】二死走者一・三塁、三塁走者は本盗を企て本塁へ突入してきた。そのとき、投球がストライクゾーンの外でこれを避けようとした打者の身体に触れたが、捕手はその直後球を捕らえて、本塁へ突入してきた走者にタッグした。どう処置したらよいか。
- 36【問】無死走者二塁で打者は遊ゴロを打ち一塁でアウト。この間に走者は三塁に達した。しかし、打つときバットが捕手のミットに振れていた。どう処置したらよいか。
- 37【問】二塁走者が三盗をしたとき、打者のバットが捕手のミットに触れ、打つことができなかった。どう処置したらよいか。
- 38【問】二死走者二塁、走者が三盗した。捕手は投手の投球をホームプレートの前に出て捕らえ、三塁へ送球して走者をアウトにした。どう処置したらよいか。
- 39【問】二死走者二・三塁、打者はバットが捕手のミットに触れながらも右翼前に安打した。三塁走者は生還、二塁走者は一挙に本塁を突いたが、右翼手からの送球でタッグアウトとなった。このとき攻撃側の監督から今のは打撃妨害だから、打撃妨害の方をとってほしいと申し出があった。どう処置したらよいか。
- 40【問】走者二・三塁、捕手の妨害にもかかわらず打者は遊ゴロを打ったが、遊撃手の失策で一塁に生き、三塁走者は生還した。しかし、二塁走者は進塁できなかった。監督の選択権はあるのか。また監督の申し出があった場合と、なかった場合はどう処置したらよいか。
- 41【問】先攻チームが一点リードして迎えた最終回の裏、一死走者二・三塁、打者が妨害されながらも右翼フライを打って二死となったが、三塁走者はリタッチして生還、二塁走者も右翼手の本塁悪送球によって三塁を回って生還した。どう処置したらよいか。
- 42【問】一死走者一・二塁、打者は捕手に妨害されながらも二塁打した。二塁走者は生還、一塁走者は二塁を空過して三塁に、打者走者も一塁を空過して二塁に進んだ。このとき攻撃側監督はアピールアウトされるのを恐れて、打撃妨害で一死満塁にしてほしいと球審に申し出た。球審はこの申し出を受け入れてよいか。
- 43【問】走者一塁、打者は一塁線上にフェアヒットを打った。打球は一塁手の後方で審判員に当たったため、球は転々とライト方向へ、打者走者は三塁に達し一塁走者はホームインした。どう処置したらよいか。
- 44【問】第三ストライクを空振りした打者は、捕手が後逸したことを知らずにアウトと思いこんでベンチへ帰りかけたが、味方の選手に注意され一塁に走り塁に達した。この打者の行為は許されるか。
- 45【問】打者の打った打球が反転してフェア地域に落としていったバットに触れた。どう処置したらよいか。

- 【答】(1) 八番打者である。投手が次の打者に一球を投じたことによりアピール権が消滅し、七番打者の三塁打は正当化される。(6.07b注1、c、d(2))
(2) 七番打者である。攻守が交代して投手が一球投じるまでにアピールがなければ、六番打者の打撃は正当化される。(6.07b注1、c、d(2))

【答】打者は四球(ボールインプレー)でアウトにされるおそれなく一塁へ進む権利を得たに過ぎないから、一塁に達するまで『タイム』を宣告してはならない。(6.08a原注関連)

【答】直ちに帰ることを条件として走り越すことは許されるから、アウトにはならない。(6.08a原注、7.08c付記1、注1)

【答】アウトである。(7.08c注1)

【答】バウンドしない投球が、ストライクゾーンで打者に触れたときは、打者が避けても避けなくてもストライクである。(6.08b注1、注2、2.72f)

【答】ストライクである。(6.08b注2)

【答】投球が、打者に触れた瞬間ボールデッドとなる。打者は死球で一塁へ、一塁走者は押し出されて二塁へ進む。本塁に突入してきた三塁走者は元の塁に戻す。(6.08b、5.09a)

【答】プレー直後、監督からプレーを生かしたい旨の申し出があれば一死走者三塁とする。しかし、申し出がなければボールデッドとし、捕手の打撃妨害で打者に一塁を与え走者は元に戻す。(6.08c注)

【答】打者が打っても打たなくても、打撃妨害となる。打者には一塁が与えられる。原則として走者は元の塁に戻らなければならないが、二塁走者は盗塁行為があったので三塁に進塁できる。(6.08c、7.04d注)

【答】打者のバットがミットに触れるだけが捕手の打撃妨害ではない。投手の正規の投球を、捕手がホームプレートを踏むか、あるいはホームプレート前方で捕らえた場合も、打撃妨害で打者に一塁が与えられる。盗塁行為のあった二塁走者は三塁に進める。(6.08c、7.04d注)

【答】打者は打撃妨害されながらも一塁に生き、他の全走者も一個以上進塁しているので打撃妨害は消え、ボールインプレーで監督の選択権はなくなる。得点は一点が記録され攻守交代となる。(6.08c)

【答】監督の選択権はある。プレーを生かしたいと申し出た場合は、得点一点が記録されて走者一・二塁となるが、申し出がない場合は打撃妨害とし、生還した走者を三塁に戻し満塁とする。(6.08c)

【答】監督の申し出がなければボールデッドとし、三塁走者を三塁に、二塁走者を二塁に戻し、打者走者は打撃妨害で一塁が与えられる。しかし、最終回の裏で勝ち越し点を上げた場合に限り、監督の申し出を待たずに得点を認め試合を終了する。(6.08c、連盟特別規則9-1)

【答】申し出を受け入れてはならない。この場合、妨害にもかかわらず打者は安打し、他のすべての走者は進塁しているから、妨害とは関係なくプレーは続けられる。また、守備側から二塁一塁それぞれにアピールを行い、審判員がこれを認めれば三死となるので得点は記録されない。(6.08c)

【答】ボールインプレーであるから打者の三進と一塁走者のホームインは認められる。(6.08d、5.09f)

【答】許される。ただし、ベンチのステップに達したらアウトとなる。(6.09b原注、7.08a付記)

【答】ボールインプレーである。(6.05h、7.09b)

4 6 【問】打球が、ファウル地域に落としていったバットに触れてフェア地域に入った。どう処置したらよいか。

【答】ファウルボールである。(6.05 h 原注、2.32注2)

4 7 【問】打者は三ゴロを打った。バットが打者の手を離れて三塁手の前に飛んだため、三塁手はこの球を捕れなかった。どう処置したらよいか。

【答】守備妨害で打者をアウトにする。なお、ボールデッドとなるから走者は進塁できない。(6.05 h 原注)

4 8 【問】打者は投ゴロを打ったがバットが折れ、折れた部分が投手の前に飛んだので投手は球を捕れず、三塁手が捕って一塁に送球したが間に合わなかった。どう処置したらよいか。

【答】バットの折れた部分が飛んだ場合は、ボールインプレーで妨害とはならない。(6.05 h 原注)

7・00 走者

1 【問】一死走者一塁のとき、打者が左中間にフライを打った。走者は抜けると思い二塁を経て三塁に向かったが、左翼手が捕球したので、走者は二塁を踏まずに一塁へ戻った。このとき二塁手は、一塁走者の二塁空過に気が付いて、二塁に触球してアピールした。どう処置したらよいか。

【答】逆送の場合も必ず通過した塁を逆の順序で触れて戻らなければならない。したがって二塁に触れていないのでアピールによってアウトになる。(7.02)

2 【問】走者二・三塁、投手の牽制球で三塁走者は三・本間に挟まれたが三塁に戻った。このとき、二塁からの走者も三塁に着いていた。三塁手は二人の走者に触球した。いずれの走者がアウトになるか。

【答】後位の走者、すなわち二塁からの走者がアウトである。(7.03)

3 【問】三塁に二人の走者が触れていた。野手はまず三塁の走者に触球した。三塁走者はアウトと思って塁を離れた。次に二塁走者にも触球した。この場合審判員は、どう処置したらよいか。

【答】この状態では、両走者ともアウトではない。塁を離れた三塁走者に再び触球すればアウトである。このような誤りがないように、審判員は、塁に着いている三塁走者に触球したとき、『セーフ』とコールする。(7.03、審判上の取り決め12関連)

4 【問】二死満塁、打者は四球で一塁に進んだ。塁に着いた後、二塁の方向へ不用意に塁を離れたので捕手は一塁へ送球して走者をアウトにして攻守交代となった。三塁の走者は一塁走者がアウトになったのちにホームインした。この場合得点は認められるか。

【答】得点は認められる。(7.04 b 原注、注、4.09 a 注2)

5 【問】一死走者二塁のとき、打者がベンチ前にフライを打った。捕手はこれを捕らえたが、ベンチ内に倒れ込んでしまった。どう処置したらよいか。

【答】打者アウト。ボールデッドとし、二塁走者を三塁に進塁させる。ただし、捕手が捕球後ベンチに踏み込んで倒れ込まなかったときは、ボールインプレーである。(7.04 c、5.10 f)

6 【問】一死走者二塁、ファウルフライを捕手がダッグアウトの中に入り込んで捕球した。これを見た二塁走者はリタッチして三塁に進塁した。どう処置したらよいか。

【答】正規の捕球でボールインプレーであるから、二死走者三塁となる。(7.04 c 原注、5.10 f)

7 【問】前問で捕手がダッグアウトの中で捕球した後倒れた場合はどうなるか。

【答】フライアウトで二死、ボールデッドとなって、走者は安全に一個の進塁が許されるので、走者三塁となる。(7.04 c 原注、5.10 f)

8 【問】打者が遊撃手頭上にライナーを打った。遊撃手は打球にグラブを投げ当てたが、左中間を抜けていった。打者走者は三塁を空過し本塁に向かったとき、空過に気が付き帰ろうとしたが、それより早く球は転送されて三塁手が塁上でアピールした。このアピールは成立するか。

【答】ボールインプレーで三塁までの安全進塁権を得ただけであるから、アピールによりアウトになる。(7.04 付記、注、7.05 c)

9 【問】打者が二塁手頭上にライナーを打った。二塁手はグラブを投げ、打球に触れたが、打球は右中間深く転がった。これを見た打者走者は一気に生還した。得点になるか。

【答】ボールインプレーであるから、三塁を得た打者走者はアウトを賭して本塁へ進んでもよい。したがって得点となる。(7.05 c)

1 0 【問】打者がホームラン性のフライを打った。野手が打球にグラブを投げて当てたため、打球はグラウンド内に落ちた。どう処置したらよいか。

【答】グラブに当たらなければホームランになったと審判員が判断したときは本塁を与える。(7.05 a)

1 1 【問】打者が打ったライナーに野手がグラブを投げたが打球に当たらなかった。攻撃側はグラブを投げたから三個の塁が与えられるのではないかと申し出た。どう処置したらよいか。

【答】グラブを投げて打球に当たらなければなんら罰則はない。送球の場合も当たらなければ同じである。(7.05 b、c、d、e 原注)

1 2 【問】打者が遊撃手頭上にライナーを打った。遊撃手がグラブを投げて球に当てたが打球は左中間に転がった。打者は三塁まで進塁できる規則があるが、二・三塁間を走っていたとき、外野手からの送球が悪送球となってスタンドに入った。このような場合どこまで走者を進めるか。

【答】ボールデッドとなり、打者走者は既に二塁を過ぎているから、送球が外野手の手を離れたときを基準として、二個の塁が与えられるので本塁まで進ませる。ただし、一・二塁間を走っているときは三塁までしか進めない。(7.05 c 注、7.05 g)

1 3 【問】三・本塁間のファウル地域を転がっている打球に三塁手がグラブを投げ当てた。どう処置したらよいか。

【答】ファウルボールの場合はペナルティがない。(7.05 c 関連)

1 4 【問】本塁前ゴロを捕った捕手の一塁送球が高くそれたので、一塁手はミットを球に投げ当てた。どう処置したらよいか。

【答】打者は二塁まで安全に進める。二塁に達したのちはアウトを賭して進塁してもよい。(7.05 e)

1 5 【問】走者一塁、投手が投手板から一塁に送球したが、横に逸れたため一塁手はミットを投げ当てた。どうしたらよいか。

【答】一塁走者に二個の塁を与え三塁に進ませる。(7.05 e 注2)

16【問】打者が三ストライク目の球を空振りしたが、捕手がこれを後逸し、転々としている球にミットを投げ当てた。どう処置したらよいか。

【答】打者走者に二個の塁を与える。この際はボールインプレーである。(7.05 e 注2)

17【問】走者一塁、打者は大きなフライを打ったがワンバウンドで外野フェンスの金網に挟まった。一塁走者はホームイン、打者走者は三塁に達した。どう処置したらよいか。

【答】ボールデッドとし、打者に二個の塁が与えられる。したがって一塁走者は三塁に、打者は二塁に戻す。(7.05 f (2))

18【問】走者一塁、打者は右翼に浅いフライを打った。一塁走者は一・二塁間で様子を見ていたが、右翼手はフライを捕らえることができず、三塁へ送球したがこれが悪送球となってスタンドに入った。打者走者は右翼手が送球する前に一塁を越えていたが、一塁走者はまだ二塁に達していなかった。どう処置したらよいか。

【答】ボールデッドとし、走者二・三塁で再開する。(7.05 g 原注1)

19【問】一死走者一・二塁、ヒット・エンド・ランが企てられ、打者は右中間へフライを打った。進塁を企てスタートをきっていた二塁走者はリタッチのため三塁直前から二塁に戻ろうとしたが、一塁走者は二塁を越えており、二・三塁間に二人の走者がいたとき、捕球した中堅手からの一塁への送球が悪送球となってスタンドに入った。二塁を越えていた一塁走者にも本塁が与えられるか。

【答】本塁は与えられない。リタッチを果たさなければならない塁、つまり投手の投球当時占有していた塁(一塁)が進塁の基準となるから三塁が与えられる。(7.05 g 原注1、i 原注2)

20【問】前問で、センターフライを捕球できず、落球した中堅手からの悪送球がスタンドに入った場合は二塁を過ぎていた一塁走者には本塁が与えられるか。

【答】リタッチを果たす必要がないので一塁走者にも本塁が与えられる。この場合は悪送球が野手の手を離れたときの走者の位置(二塁)を基準として二個の塁が与えられる。(7.05 g)

21【問】一死走者一・二塁、打者の打った遊ゴロを遊撃手はファンブルし、あわてて一塁に送球したが悪送球となってスタンドに入った。一塁走者は二塁の直前で転んだため、遊撃手が一塁に送球したときには、まだ二塁に達していなかったが、打者走者は既に一塁に達していた。どう処置したらよいか。

【答】ボールデッドとなり、二塁走者は本塁へ、一塁走者は三塁へ、打者は二塁へ進ませる。(7.05 g 原注1)

22【問】一死走者一塁、打者が二塁後方にフライを打った。二塁手はこれを落球したので、この間に一塁走者は三塁に向かい、打者は一・二塁間にいた。中堅手が三塁に送球したが悪送球となってスタンドに入った。各走者をどこまで進ませるか。

【答】ボールデッドとし、一塁走者を本塁へ、打者を三塁に進塁させる。(7.05 g)

23【問】走者一塁、投球が暴投となりベンチに入った。その間に走者は三塁まで進んだ。どう処置したらよいか。

【答】一個の塁しか与えられないから、走者は二塁に戻す。(7.05 h)

24【問】一死走者一塁、打者が2ストライク後の球を空振りしたが、捕手は後逸し三塁側のベンチの方に転がった。取りに行った三塁手はこの球を蹴ってしまい、ベンチへ入れてしまった。どう処置したらよいか。

【答】打者アウト。ボールデッドとし、一塁走者には二個の塁を与え三塁へ進ませる。(7.05 h 付記、6.05 c)

25【問】狭い運動場などでグラウンドルールを決める場合、『エンタイトル・ワンベース』という決め方があるが、これはどういうことか。

【答】普通正規の球場で適用されているグラウンドルールは『エンタイトル・ツーベース』である。これはボールインプレー中に野手の送球がボールデッドになる個所に入った場合、『打球処理直後の内野手の最初の悪送球』(その他の送球)の区分によって走者(打者走者を含む)に二個の塁を与えることである。狭い運動場等では、このような悪送球がなされた場合、走者(打者走者を含む)に二個の塁を与えることは守備側に極めて不利になるので、一個しか与えないという規定である。この場合、野手が球に触れたかどうかには関係なく適用されるものである。したがってこのような特別ルールは、試合前に大会主催者、審判員、チームの代表者によって決めておくのがよい。(7.05、g 関連、アマチュア野球内規12)

(例1) 内野ゴロを打った打者走者をアウトにしようとした内野手が一塁に悪送球し、球が観覧席またはベンチに入った場合、打者には一塁を与えるに過ぎない。

(例2) 一塁走者に対するけん制球が同様の個所に入った場合、投手板からの送球も、投手板をはずした場合も同じく二塁に進める。

(例3) 二・三塁間で挟殺プレー中、野手の送球が前記の個所に入った場合も三塁に留める。ただし、球が野手の手を離れたとき走者がすでに三塁に達していたら本塁を与える。

(例4) 外野に長打した打者走者が二塁を回ったとき、外野手がアウトにしようとした送球(中継した場合はその野手の送球)が前記の個所に入った場合三塁を与える。

26【問】走者二・三塁、二塁走者が投手の牽制で二・三塁間で挟殺された。走者が二塁へ帰ろうとしたとき球を持たない遊撃手と衝突した。審判員は『オブストラクション』を宣告したが、各走者はどこまで進塁できるか。

【答】ボールデッドとし、二塁走者は三塁へ、三塁走者は押し出されて本塁へ進む。(7.06 a 注2)

27【問】挟殺プレー中、走者が球を持たない野手に抱きついていった。どう処置したらよいか。

【答】オブストラクションにはいけない。したがってボールインプレーであるから触球されればアウトである。(7.06 a)

28【問】挟殺プレー中、走者が捕球するまねをしている野手と衝突した。オブストラクションか、それとも守備妨害か。

【答】オブストラクションである。野手が球を持っているか球を処理する行為をしている場合以外は、衝突すればオブストラクションとなる。(7.06 a、付記、2.51原注)

29【問】走者一・三塁、三塁走者が投手の牽制で追い出され、挟殺プレイ中に球を持たない野手と衝突してオブストラクションによって本塁が与えられた。その間一塁走者は走り続けオブストラクション発生時には三塁の近くまできていた。一塁走者は二塁までか、それとも三塁まで進めるか。

【答】三塁である。(7.06 a 注3)

30【問】挟殺プレー中、送球が走者の背中に当たり、走者の前で送球を捕らえようと待っていた野手と衝突した。どう処置したらよいか。

【答】球を持たない野手に走者が衝突したのであるから、オブストラクションである。(7.06 a 注1、2.51原注)

31【問】一・二塁間で挟殺プレー中、悪送球があり球はベンチに入った。その悪送球が野手の手を離れた直後、オブストラクションが発生した。オブストラクションを受けた走者の与えられる塁はどこまでか。

【答】オブストラクションと関係なく二個の塁が(三塁)が与えられる。(7.05 g、7.06 a 原注)

32【問】前問で、悪送球が野手の手を離れる前にオブストラクション発生した。オブストラクションを受けた走者の与えられる塁はどこか。

【答】二塁である。オブストラクションでボールデッドとなるからオブストラクション以後のプレーは無効となる。(7.06 a)

33【問】走者二塁、遊撃手がフェイント気味に牽制に入り、すぐ守備位置に戻ろうとしたとき帰塁しようとする走者と衝突した。このとき、二塁をカバーした二塁手に球が送られ触球アウトとなった。どう処置したらよいか。

【答】オブストラクションで走者を三塁に進ませる。(7.06 a)

34【問】打者が右翼線に長打して三塁へ進塁を企てたので、右翼手はそれを阻もうとして直接三塁へ送球したが、打者走者は二塁を越えたところで球を持たない遊撃手と衝突した。どう処置したらよいか。

【答】オブストラクションでボールデッドとなり打者走者を三塁に進める。(7.06 a 注3)

35【問】無死走者二塁、打者が三ゴロを打った。三塁手は走ってきた二塁走者に触球し、さらに一塁へ送球したが、球が一塁手に達する前に打者走者が前を横切った投手と衝突して倒れた。どう処置したらよいか。

【答】二塁走者はアウトで一死となり、打者走者にはオブストラクションで一塁が与えられる。(7.06 a 注4)

36【問】一死走者二塁、二ゴロを打った打者が本・一塁間を横切ろうとした投手と衝突した。どう処置したらよいか。

【答】オブストラクションで打者は一塁へ、二塁走者はオブストラクションがなければ三塁に達したであろうと判断されれば三塁へ進める。(7.06 a 注3)

37【問】二ゴロを打った打者走者が本・一塁間を横切ろうとした投手と衝突した。しかし、衝突したときよりも一塁でのアウトの方が早かった。オブストラクションか。

【答】アウトになった後での衝突だから、オブストラクションとはならない。(7.06 a 関連)

38【問】走者二塁、打者は中前安打した。走者は本塁にヘッドスライディングしたが、球を持たない捕手が三・本塁線上にいたので、触球することができなかった。そこへ捕手がタッグした。どう判定したらよいか。

【答】捕手はボールを持たないで、得点しようとしている走者の進路をふさぐ権利はない。オブストラクションでホームインを認める。(7.06 a 付記、2.51原注)

39【問】一死走者二塁、打者は中堅前に安打した。二塁走者は本塁を突いたがアウトになった。打者走者は一塁を回ったところで球を持たない一塁手と衝突して倒れた。しかし、すぐ起きあがって二塁へ走ったが捕手の送球でアウトになった。どう処置したらよいか。

【答】本塁のプレーはそのまま認められ二塁走者はアウト。一塁塁審は一塁手を指してオブストラクションのシグナルをし、プレーの落着後協議して、二塁まで進塁できた場合と判断した場合はオブストラクションで二塁に進める。進塁できないと判断した場合はアウトである。(7.06 b、原注、注1)

40【問】右翼線に長打した打者走者が二塁を回ろうとしたとき、二塁手は球を持たないのにタッグのまねをした。走者はよろけたが走り続けて三塁寸前でアウトになった。どう処置したらよいか。

【答】オブストラクションで打者走者を三塁に進ませる。(7.06 b、連盟取り決め事項9(4))

41【問】打者が長打し一・二塁間で二塁手に妨害された。三塁への進塁は明らかに無理だと思われたが打者走者は三塁に走りアウトとなった。このようなときはどう処置したらよいか。

【答】オブストラクションを宣告されても、審判員が二塁しか進めないと判断したのに三塁まで欲ばってアウトになったのだから、打者走者はアウトである。(7.06 b、原注、注1)

42【問】打者が中堅前に安打し、一塁を回ったとき球を持たない一塁手と衝突して倒れた。中堅手から一塁へ送球されてアウトになった。どう処置したらよいか。

【答】オブストラクションで打者走者を一塁に生かす。(7.06 b)

43【問】走者二塁、打者は右翼前に安打した。二塁走者は三塁を回って本塁をうかがい。打者走者は一塁を回ったところで球を持たない一塁手に走塁を妨害された。球が右翼手から本塁へ送られたが悪送球となり、スタンドに入った。どう処置したらよいか。

【答】二塁走者は本塁へ、妨害を受けた打者走者は三塁まで進ませる。このオブストラクションはボールインプレー中であり、この間に悪送球がスタンドに入ったのであるから、妨害された打者走者は、悪送球が野手の手を離れたときにいた位置を基準として、二個の塁が与えられる。(7.06 b、7.05 g)

44【問】一死走者三塁、スクイズが行われた。あわてた捕手が打者の構えているバットに触れたので打者はバントできなかった。どう処置したらよいか。

【答】投手にバークを課し三塁走者は本塁へ、打者には打撃妨害で一塁を与える。(7.07.注2)

45【問】一死走者二、三塁、スクイズが行われたとき、打者のバットが捕手のミットに触れてバントができなかった。三塁走者は本塁に走っていたが、二塁走者は二塁を離れただけだった。どう処置したらよいか。

【答】三塁走者の得点を認め、打者は打撃妨害で一塁が与えられる。盗塁行為のなかった二塁走者は二塁に留める。(7.07、注2、7.04 d、6.08 c)

46【問】一死走者三塁、走者は本塁突入のまねをしたが途中で止まった。捕手は三塁走者につられてホームプレート上に出た。しかし、打者はバントして投ゴロとなった。三塁走者は帰塁し打者は一塁アウトとなった。どう処置したらよいか。

【答】打撃妨害で打者に一塁を与える。(7.07注1、6.08 c)

4 7 【問】二死走者三塁、三塁走者がホームスチールを行ったので、打者はバッターボックスの外に出て走路をあげた。捕手はホームプレート上に出て投球を捕らえ、本塁直前で走者にタッグした。どう処置したらよいか。

4 8 【問】走者が二・三塁間で挟殺され、球を持った三塁手が走者を追いかけた。走者は走路外に離れたので、三塁手は触球行為をしないで審判員にアウトではないかと抗議した。どう処置したらよいか。

4 9 【問】最終回の裏 2 - 2 の同点で、一死走者一・三塁のとき打者は場外本塁打した。三塁走者がホームインしたので、一塁走者は二塁に進んだあとベンチへ引き上げてしまった。打者は正規に塁に触れて本塁に進んだ。この試合の得点は何点か。

5 0 【問】一塁走者が二盗したとき、捕手からの送球で二塁手に触球されたのでアウトと思い込み、審判員の宣告を聞かずにベンチに向かって行った。どう処置したらよいか。

5 1 【問】一死満塁、打者が二ゴロを打った。一塁走者は途中打球を処理しようとしていた二塁手と衝突した。三塁走者は生還、二塁走者も三塁へ進んだ。どう処置したらよいか。

5 2 【問】一死走者二塁、打者が遊ゴロを打った。球を捕らえた遊撃手が一塁に送球しようとした手に、走者が触れたため球を落とした。どう処置したらよいか。

5 3 【問】一死走者三塁、打者が三塁ベース近くにフライを打ち上げた。三塁走者は塁上で打球を捕らえようとする三塁手を押して、妨害をしたため捕球することができなかった。どう処置したらよいか。

5 4 【問】走者一・三塁、三塁走者が三・本塁間で挟殺され、守備妨害でアウトになった。一塁走者はこの挟撃中に二塁を過ぎ、更に三塁へ向かっていた。どう処置したらよいか。

5 5 【問】走者二・三塁、三塁走者が三・本塁間で挟殺中、両手を高く上げて野手の送球に触れたので守備妨害でアウトとなった。二塁走者はその守備妨害の起こる前に三塁に達していた。どう処置したらよいか。

5 6 【問】一死満塁、三塁走者がホームスチールをしたとき、遊ゴロが打たれ、野手がファンブルした球を二塁走者は故意にけとばした。このとき三塁走者は本塁に達していたが、打者走者はまだ一塁に達していなかった。どう処置したらよいか。

5 7 【問】二塁走者が、三盗のとき足を故意に高く上げてスライディングしたため、三塁手は捕手からの送球を落球した。どう処置したらよいか。

5 8 【問】一塁走者が二盗を行い二塁に達したが、走者のスライディングが激しく二塁のキャンパスが定位置から離れてしまった。走者はこのキャンパスバッグと定位置との間にいたので、捕手からの送球を受けた二塁手は走者にタッグした。どう処置したらよいか。

5 9 【問】走者一塁、打者は二塁打を打った。一塁走者は二塁をけてキャンパスバッグを移動させたまま三塁に進み、打者は二塁キャンパスバッグのあった元の位置に達した。これでよいか。

6 0 【問】四球を得た打者が一塁に触れた後、一・二歩ベースを走り越した。これを見た捕手は一塁に送球、打者走者が一塁に帰塁する前にタッグした。どう処置したらよいか。

6 1 【問】四球を得た打者が一塁に触れたあと、コーチボックスの方へ行きかけて塁を離れたので、一塁手が触球した。アウトになるか。

6 2 【問】一死走者一・三塁のとき、打者が外野フライを打った。三塁走者はリタッチ（再度の触塁）して本塁を踏んだ。この後、セットポジションをとった投手は軸足を後方にはずして一塁にけん制するまねをした。このとき三塁手からアピールのため、球の要求があったので投手は三塁に送球した。どう処置したらよいか。

6 3 【問】一塁走者が二塁へ盗塁したとき、捕手はファウルチップした球を二塁に送球したがセーフとなった。どう処置したらよいか。

【答】打者がボックス内にいようと、いまいと、捕手がホームプレート上で投球を捕らえたら、走者にはバークで本塁を与え、打者には打撃妨害で一塁を与える。(7.07注1、7.04 d、6.08 c)

【答】三塁手の触球の動作がない限り、走者が塁間を結ぶ直線より3フィート以上離れてもアウトにはならない。(7.08 a、(1) 注1)

【答】打者の本塁打は認められ、4 - 2 で後攻チーム勝ちとなる。(7.08 a (2) 原注)

【答】走者がアウトと思いこんだまま、気付いて戻ることを断念しなければならない距離まで塁から離れたときは、その走者を走塁放棄でアウトを宣告する。(7.08 a (2) 原注)

【答】ボールデッドとなり一塁走者は守備妨害でアウト。各走者は元の塁に戻らせ打者には一塁を与える。(7.08 b 原注1、7.09-1)

【答】走者は守備妨害でアウトになる。打者には一塁を与える。(7.08 b 原注1、注1)

【答】走者と打者の二人をアウトにする。二死後のときは打者をアウトにする。(7.08 b 原注1)

【答】ボールデッドとなり、一塁走者の二塁占有が許される。(7.08 b 原注2)

【答】ボールデッドとなり、三塁に達した走者を二塁へ戻す。(7.08 b 原注2)

【答】ボールデッドとして、守備妨害で二塁走者アウト。三塁走者を元の塁に戻し、打者は一塁、一塁走者を二塁として二死満塁で試合を再開する。(7.09 m、7.08 f、5.09 f)

【答】守備妨害で走者をアウトにする。『連盟』では、故意に足を高く上げてスライディングすることは危険防止のためもあり禁じている。(7.08 b、連盟取り決め事項15(3))

【答】走者のスライディングでキャンパスバッグが定位置から離れたときは、その走者に対してはどのようなプレーもできないからセーフである。(7.08 c 付記2)

【答】キャンパスバッグが移動したときは、次の走者は元の位置についていればよい。塁のバッグがとめてない場合には、元のベースの位置がはっきり分かるようにしておかなければならない。(7.08 c 付記3)
(参考)その方法には一塁・二塁、二・三塁間に白線を引くか、または、各ベースの位置がはっきり分かるように標示する。たとえば、
(1) ベースの位置にゴムまたはビニール紐を埋める。
(2) 石灰で標示する。

【答】アウトではない。安打・失策などによって一塁に達した打者走者と同じに扱う。ただし四球目の投球を捕手が後逸したときなどで、二塁方向に一歩でも出れば触球アウトの状態に置かれる。(7.08 c 付記1、注1)

【答】アウトである。走者が塁を離れるときは、『タイム』を要求し、審判員が『タイム』を宣告した後でなければならない。(7.08 c)

【答】一塁走者を牽制するまねをしたことにより、アピール権は消滅しているから、たとえ三塁走者のリタッチが早かったとしてもアピールは成立しない。(7.08 d、7.10)

【答】ファウルチップは、ボールインプレーであるから走者はセーフである。(7.08 d 原注、2.34)

6 4 【問】 走者一塁のとき、打者が三塁線フェアのゴロを打ったが三塁手はファンブルした。一塁走者は一度二塁に達したが、ファウルボールと勘違いして一塁の方へ戻ったので、三塁手は二塁上の二塁手に送球した。どう処置したらよいか。

6 5 【問】 一死満塁、打者は一ゴロを打った。守備側は併殺を狙い1 - 遊 - 1 と球を送ったが、一塁走者はスタートよく二塁でセーフ、打者走者は一塁でアウトになった。ところが一塁手は二塁に達した走者が大きく離塁していたのを見て、再び二塁に送球してアウトにし三死となった。得点はどうか。

6 6 【問】 一死走者一・二塁、打者は遊撃手と左翼手との間に高いフライを打った。二塁走者は二塁ベースについていたが、一塁走者は安打になると思って二塁へ走った。結局左翼手が落球し、すぐ拾って二塁へ送球した。野手は先ず塁上の二塁走者に触球、続いて一塁走者にも触球した。いずれの走者をアウトにするか。

6 7 【問】 走者一・三塁、打者が二ゴロを打った。前進守備をしていた二塁手は球を処理しようとしたがトンネルし、すぐ後ろを走っていた一塁走者に球が触れた。どう処置したらよいか。

6 8 【問】 一死走者一・二塁、打者は遊ゴロを打ったが、遊撃手のグラブをはじいた球が二塁走者に触れた。遊撃寄りに近づいていた三塁手は、その球を捕って一塁走者を二塁でアウトにした。どう処置したらよいか。

6 9 【問】 走者一・二塁、打者が高いバウンドで投手を越えてゆくゴロを打った。一塁走者は二塁近くでこの打球にあたった。どう処置したらよいか。

7 0 【問】 走者二塁、遊撃ゴロが野手の直前でイレギュラーバウンドして遊撃手の頭上はるか高く越えて後ろを走っていた二塁走者にあたった。どう処置したらよいか。

7 1 【問】 三遊間の打球を捕りに行った遊撃手の右側方を抜けて、二塁走者にあたった場合はどうか。

7 2 【問】 一死走者二塁、打者が三塁手の横にライナーを打った。三塁手はこの打球をはじいたが、走者に当たり地面に触れないうちに遊撃手が捕って一塁に送球した。しかし打者走者はすでに一塁に達していた。守備側は打球が一度も地面に触れなかったため、二人の走者はアウトであると申し出た。どう処置したらよいか。

7 3 【問】 走者二塁のとき、打者の打球がキャンパスバックに当たりフェア地域を転がっているとき、二塁からの走者にあたった。どう処置したらよいか。

7 4 【問】 走者三塁、三塁ベースに当たった打球がファウル地域に反転し、三塁に戻ろうとしていた走者にあたった。どう処置したらよいか。

7 5 【問】 無死走者一・二塁、打者が内野フライを打ったので、球審は『インフィールドフライ』を宣告した。しかし、野手は落球し、あわてて三塁に進もうとする走者をアウトにするため三塁へ送球したが、悪送球となったので二塁走者は本塁へ、一塁走者は三塁へ、打者走者は二塁に達した。どう処置したらよいか。

7 6 【問】 無死満塁、打者が二塁近くにフライを打ち上げ、『インフィールドフライ』が宣告された。ところがこの打球が塁上にいた走者に直接当たった。どう処置したらよいか。

7 7 【問】 一死走者一・二塁、二塁の走者が三盗したとき打球が三塁へのフライとなり『インフィールドフライ』が宣告されたが、三塁に進んだ走者に塁上で当たった。どう処置したらよいか。

7 8 【問】 一死走者一・二塁、打者が二塁近くにフライを上げ、『インフィールドフライ』が宣告された。二塁走者は三塁へ向かっていたが、二塁へ帰塁しようとしたとき打球に当たった。どう処置したらよいか。

7 9 【問】 一死走者三塁、スクイズプレーが行われた。投手はアウトコースにはずして投球した。打者は三塁走者が本塁近くまでできていたので、あわてて片足をホームプレートの上に踏み出して打ち、打球は三塁前に転がった。どう処置したらよいか。

8 0 【問】 前問の場合で、打者が片足をバッターボックス内に置き、他の足をホームプレートの上方空間に出してバントしたが、打ち終わってから足を下ろしたところがホームプレートの上であった。どう処置したらよいか。

【答】 どのような理由にせよ。元の塁の方へ離れた場合は、再びフォースの状態におかれるから、一塁走者は二塁でフォースアウトになる。(7.08 e、注2)

【答】 併殺プレーではあるが、二塁走者のアウトはフォースアウトではないから、そのアウト以前に走者が本塁を踏んでいれば得点は認められる。(7.08 e 原注)

【答】 野手が落球したために、各走者は進塁しなければならない。したがって前位の二塁走者は三塁に進まねばならないから、たとえ二塁についていても触球されればアウトになる。なお、一塁走者は二塁上にいればセーフである。(7.08 e 注1)

【答】 他の内野手が、この打球を守備する機会がなかったときはそのままボールインプレーである。(7.09 m (2)、5.09 f (2))

【答】 一塁走者はアウト。この場合ボールインプレーであるからプレーはそのまま続けられる。(7.09 m (1)、5.09 f (1))

【答】 一塁走者は直接打球に触れたからアウト。ボールデッドとなり、打者には一塁を与え、二塁走者は元の二塁に戻す。(7.09 m、6.08 d、7.08 f、5.09 f)

【答】 ボールデッドとなり、二塁走者をアウトにし、打者には一塁を与える。(7.09 m、5.09 f)

【答】 容易に守備できた範囲の打球に、すぐ後ろで当たっても、この打球に対して他の内野手が守備する機会がない場合はアウトにはならない。しかし、守備する機会があったと審判員が認めた場合はアウトになる。(7.09 m (2)、5.09 f (2))

【答】 いったん三塁手に触れてから、走者にあたった球は、地面に触れたものと同様にみなされるので直接捕球とはならず、そのまま成り行きである。(7.09 m、(1)、2.15、5.09 f 原注)

【答】 フェアの打球が直接走者にあたったと同様走者をアウトにする。(7.08 f 注2)

【答】 ボールインプレーで走者はアウトにならない。(7.08 f 注3)

【答】 インフィールドフライはボールインプレーであり、打者だけがアウトになる。従って他の走者は進塁して良い。(6.05 e、2.40)

【答】 インフィールドフライと宣告された打球に限り、塁についている走者に触れてもその走者はアウトにならず、ボールデッドとなり打者だけをアウトにする。(7.08 f 例外、注5)

【答】 インフィールドフライと宣告された場合、フライが塁についている走者に触れてもアウトにならない。しかし塁とは、投手の投球当時占有していた塁であって、このように次塁へ進んだときの塁ではない。従って打者はインフィールドフライでアウト。三塁に進んだ走者もアウトである。(7.08 f 例外、注4)

【答】 打者と走者の二人がアウトになり、ボールデッドとなる。(7.08 f 注1、注5)

【答】 反則打球となる。したがって三塁走者をアウトにし、ボールデッドで投球はノーカウントとする。なお、二死の場合は打者をアウトにする。(7.08 g 注2、7.09 d、6.06 a 原注)

【答】 バントしたとき、片足または両足がホームプレート上方空間にあった場合は、下ろした場所がバッターボックスの外でも反則打球とはならない。(7.08 g 注2、6.06 a 原注)

- 8 1 【問】スクイズプレーが行われ、打者がバッターボックスの外に片足を出してバントしたが投球がバットに触れなかった。どう処置したらよいか。
- 8 2 【問】前問の場合で、打者が投球を見送った場合は、どう処置したらよいか。
- 8 3 【問】一死走者三塁、打者のカウント 2 - 3 のとき、三塁走者が本塁へ突入するのを見て、投手はセットポジションの姿勢から軸足をプレートの後方にはずして捕手に送球した。打者はこの球を打って安打したので、三塁走者は生還し打者は一塁に進んだ。どう処置したらよいか。
- 8 4 【問】前問の場合で、二死のときはどう処置したらよいか。
- 8 5 【問】一死走者三塁、打者のボールカウント 1 - 0 のとき、三塁走者が本盗を行った。このとき、打者はバッターボックスの後方に下がり、まさに捕球しようとする捕手に対して故意にバットを後方に引いてミットに当てたため、捕手は捕球できなかった。どう処置したらよいか。
- 8 6 【問】一死走者三塁、打者のボールカウント 2 - 3、次の投球がボールのとき、三塁走者が本盗を行ったので捕手がタッグしようとしたが打者に妨害された。どう処置したらよいか。
- 8 7 【問】一死走者三塁、打者のボールカウント 2 - 3、次の投球を打者が空振りしたとき、三塁走者が本盗を行ったので捕手がタッグしようとしたが、三振アウトになったばかりの打者に妨害された。どう処置したらよいか。
- 8 8 【問】無死走者二・三塁、スクイズプレーが行われた。打者がバントし本・一塁間の線上に転がした。一塁手は前進してこの球を捕らえようとしたが、打者走者と衝突し二人とも転倒した。どう処置したらよいか。
- 8 9 【問】一死走者一・二塁、打者が場外本塁打を打った。一塁走者は三塁近くで二塁を空過したことに気付いて、二塁の踏み直しに戻ったが、本塁打を打った打者はすでに二塁を過ぎていたので、二・三塁間で二人の走者はすれ違ってしまった。どう処置したらよいか。
- 9 0 【問】無死走者一塁、打者が外野フライを打った。一塁走者は捕らえられると思い、一塁を過ぎたところで立ち止まっているのを打者走者が追い越した。外野手はそのフライを落球した。どう処置したらよいか。
- 9 1 【問】走者二塁のとき、打者が一ゴロを打った。一塁手は前進してこの球を捕らえ二塁走者を牽制しながら打者走者に触球しようとしたが、打者走者は逆に走り本塁を過ぎてしまった。二塁走者はその間に三塁に進塁した。どう処置したらよいか。
- 9 2 【問】走者が本塁を空過して、本塁に触れ直そうとしなし場合、野手が球を持って本塁に触れただけでアウトにしてよいか。
- 9 3 【問】三塁走者が、捕手のタッグを避けたが、本塁を踏み損ねて走り越したので、触れ直しに戻ろうとしていたとき、二塁走者が三塁へ進塁を企てているのを見た捕手は、本塁に触れてアピールして、三塁へ送球した。アピールは認められるか。
- 9 4 【問】無死走者一・二塁で打者のボールカウント 2 - 1。次の投球はストライクだったが、走者の重盗を見て打者は故意にバットを後ろに引いて捕手の守備を妨害したので、捕手は送球できなかった。どう処置したらよいか。
- 9 5 【問】走者二塁、打者のボールカウント 1 - 2 のとき走者は三盗を行った。打者はこのとき空振りし、スイングの振り戻しの余勢でバットが捕手のミットに触れた。このため、捕手は投球を捕らえることができなかった。どう処置したらよいか。
- 9 6 【問】二死走者三塁、打者のカウント 1 - 2 の次の球はボールであったが、捕手が横にそらしたので、走者は本塁へ走った。捕手は球を拾って本塁をカバーした投手に送球したが、打者に妨害されてタッグできなかった。どう処置したらよいか。
- 9 7 【問】前問で、一死の場合はどう処置したらよいか。

- 【答】バットに触れないときは反則打球にはならない。空振りでストライクをカウントする。(7.08 g 注2)
- 【答】ボールまたはストライクをカウントする。(7.08 g 注2)
- 【答】送球を打ったのだから守備妨害で三塁走者をアウトにし、打者はノーカウントとする。(7.08 g 注1、7.07注4、7.09 d、6.06 c)
- 【答】打者をアウトにし攻守交代となる。(7.07注4、6.06 c)
- 【答】ボールデッドとし、三塁走者アウト。投球はカウントする。(7.08 g 注2、7.09 d、6.06 c 原注)
- 【答】ボールデッドとなり打者アウト。三塁走者を三塁に帰らせる。(7.09 a 注)
- 【答】ボールデッドとなり、三塁走者もアウトにする。(7.09 a 注、7.09 f)
- 【答】ボールデッドとし、打者走者をアウト。二・三塁の走者はそれぞれ元の塁に戻らせる。(7.08 b、7.08 g 注3)
- 【答】打者走者が追い越しアウトとなる。得点は 2 点。(7.08 h 注2)
- 【答】打者走者を追い越しアウトとする。(7.08 h 注2)
- 【答】打者走者は本塁に達したらアウトになるが、ボールインプレーであるから走者の三進は認められる。(7.08 i 注)
- 【答】アピールプレーであるから、言葉か、アピールとわかる動作でアピールをして初めてアウトにすることができる。(7.08 k 原注、7.10 d)
- 【答】アピールは認められない。本塁を踏み損ねた三塁走者が、踏み直そうとするプレーはふつうのプレーであるから、その走者に触球しなければアウトにならない。したがって三塁走者が本塁に触れれば得点となる。(7.08 k 原注)
- 【答】ボールデッドとなり、打者は三振でアウト。重盗を防ごうとする守備動作を妨害したのだから、その対象となった走者もアウトにする。しかし、捕手の守備動作がどの走者を対象として行われたか分からないときは、本塁に近い走者、つまり二塁走者をアウトとし、一塁走者は一塁へ戻す。(7.09 a 注、7.09 f 注)
- 【答】ボールデッドとし、打者のカウントは 2 - 2 (三ストライク目のときは打者を三振アウトにする) 走者は元の二塁に戻らせる。(7.09 a、6.06 c 原注)
- 【答】本塁での守備を打者が妨害したのだから、打者をアウトにして攻守交代となる。もちろん得点はない。(7.08 g、7.09 d、6.06 c)
- 【答】無死または一死の場合は、打者の妨害によって三塁走者アウト、打者のカウントは 1 - 3 となる。(7.08 g、7.09 d、6.06 c)

9 8 【問】一死走者一・三塁、一塁走者が二盗を行ったので捕手は二塁に送球アウトにした。二塁手がさらに本塁へ進塁しようとしている三塁走者をアウトにするため本塁に送球しようとしたが、アウトになったばかりの一塁走者の妨害で、送球できなかった。どう処置したらよいか。

9 9 【問】一死満塁、三塁走者が投手の牽制で三・本塁間に挟まれたが三塁に戻った。すでに三塁に達していた二塁走者は、二塁に戻ろうとして野手に触球されアウトになった。一塁走者もすでに二塁を過ぎていたので、野手はさらに二塁に送球しようとしたが、アウトになった走者に妨害され送球することができなかった。どう処置したらよいか。

1 0 0 【問】無死走者一塁、打者が二ゴロを打った。二塁手は二塁に入った遊撃手に送球したが、一塁走者は併殺を防ぐため遊撃手に抱き付いた。どう処置したらよいか。

1 0 1 【問】一死走者一・二塁、打者が遊ゴロを打った。二塁走者は併殺を防ぐため打球を故意に蹴とばした。どう処置したらよいか。

1 0 2 【問】無死走者二・三塁のとき、スクイズプレーが行われた。捕手前にフェアの小フライを打った打者は捕球しようとする捕手を妨害した。どう処置したらよいか。

1 0 3 【問】無死走者一・三塁、一塁走者が二盗したとき一塁前にフライを打った打者走者は、一塁走者とともに併殺になるのを恐れて故意に捕球を妨害、一塁手は落球した。どう処置したらよいか。

1 0 4 【問】走者二塁のとき、打者が中堅前に安打した。二塁走者が三塁を過ぎて本塁に進もうとしたが、アウトになると判断したベースコーチが抱き止めた。このとき中堅手は本塁へ送球していた。どう処置したらよいか。

1 0 5 【問】走者一塁、打者が場外本塁打を打って、三塁を回ったところで、一塁走者を追い越しそうになったのでベースコーチが前に出て抱えて止めた。この行為は許されるか。

1 0 6 【問】一死走者三塁、三塁のベースコーチがコーチボックスから突然本塁の方向へ走り出した。投手版について捕手のサインをみていた投手は、三塁走者が本盗を企てたものと思い、軸足を後方にはずして本塁に送球した。どう処置したらよいか。

1 0 7 【問】無死満塁、打者が遊ゴロを打った。遊撃手は本塁に送球したが、捕手が落球したため、三塁走者はホームインした。捕手は直ちに一塁に送球したが、打者走者は一塁前で、本・一塁間の内側を走ったため、送球が背中に触れ、一塁手は捕球することができなかった。どう処置したらよいか。

1 0 8 【問】前問の場合で三塁走者が本塁でフォースアウトの場合、どう処置したらよいか。

1 0 9 【問】打者が本塁前にバントして一塁へスタートしたとき、打球を処理しようとして前に出た捕手と衝突した。走塁妨害となるか、または守備妨害となるか。

1 1 0 【問】走者一・二塁、打者が長打したので二走者ともに生還したが、二塁走者が本塁を空過したので踏みに戻った。どう処置したらよいか。

1 1 1 【問】一死走者一塁、打者が場外ホームランを打ってボールデッドとなった。二走者とも相次いで生還したが、一塁走者は本塁を踏まなかったので踏みに戻った。得点になるか。

1 1 2 【問】一死走者三塁、打者が外野フライを打った。三塁走者は塁の後方からスタートを起こし、打球が野手に捕球された後三塁に触れて本塁に生還した。どう処置したらよいか。

1 1 3 【問】打者が右中間に三塁打を打った。野手は打者の一塁空過に気付いていたので、三塁で触球してアピールした。どう処置したらよいか。

1 1 4 【問】打者がワンバウンドでスタンドに入る二塁打を打ち、一塁を空過して二塁に達した。しかし、一塁の空過に気づき、一塁を踏み直して改めて二塁に達した。この走塁は正しいか。

【答】ボールデッドとし、三塁走者もアウトにして三死となる。(7.09 f、6.05m)

【答】ボールデッドとし、プレーの対象者である二塁を過ぎていた一塁走者をアウトにする。(7.09 f 注、6.05m)

【答】ボールデッドとなり、一塁走者を妨害でアウトにし、さらに打者走者もアウトにする。(7.09 g、6.05m)

【答】ボールデッドとし、守備妨害の二塁走者をアウトにするとともに打者走者をアウトにする。(7.09 g)

【答】ボールデッドとし、打者とともに本塁に最も近い三塁走者をアウトにする。二塁走者は元の塁に戻す。(7.09 h)

【答】ボールデッドとなり、打者走者をアウトとし、さらにどこで併殺が行われようとしていたかに関係なく、本塁に最も近い走者、すなわち三塁走者もアウトにし一塁走者は一塁に戻す。(7.09 h)

【答】ベースコーチが走者に肉体的援助をしたことで、二塁走者をアウトとしボールデッドとなる。(7.09 i)

【答】許されない。ベースコーチが肉体的援助をしたと判断されて打者はアウトになる。(7.09 i)

【答】ベースコーチの行為は明らかに守備側を惑わす行為であるから、ボールデッドとし三塁走者をアウトにする。(7.09 j)

【答】ボールデッドとなり、打者走者を守備妨害でアウトにする。しかし、その妨害より前のホームインは認められる。なお、一・二塁の走者は、妨害発生の瞬間にすでに占有していたと審判員が判断する塁まで戻す。(7.09 k、2.44 a 原注、6.05 k)

【答】ボールデッドとなり、打者走者は守備妨害で三塁走者と併殺になる。他の走者は妨害発生の瞬間に、占有していた塁、つまり次塁に達していればその塁、達していなければ元の塁へ戻す。(7.09 k、2.44 a 原注、6.05 k)

【答】本塁周辺の場合は、どちらかが故意に妨害しない限り成り行きで、ボールインプレーである。(7.09-1 原注)

【答】二塁走者は、一塁走者が本塁を踏んでしまえば踏み直しはできない。したがって触球するか、または本塁上で球を持ってアピールすればアウトになる。(7.10 b 付記(1))

【答】ボールインプレーのときでもボールデッドのときでも、後位の走者がホームインしてしまえば空過した塁を踏み直すことはできないので、プレー再開後アピールがあれば一塁走者の得点は取り消される。(7.10 b 付記(1)、注1)

【答】この離塁法(フライングスタート)は正しいリタッチの方法ではない。アピールがあれば走者はアウトになる。(7.10 a 原注)

【答】アピールは受け付けられる。三塁塁審は一塁塁審に裁定を求め、確認した一塁塁審が『アウト』を宣告する。(7.10 b、審判上の取り決め事項3-1、アマチュア内規14)

【答】正しくない。ボールデッドのもとでは、空過した塁の次の塁に達すれば、その塁の踏み直しは許されない。したがってこの場合、プレイ再開後、一塁でアピールされればアウトになる。(7.10 b 付記(2))

- 1 1 5【問】打者がワンバウンドでスタンドに入る二塁打を打ち、一塁を空過して三塁に達した。野手はスタンドから投げ返された球を持って一塁でアピールした。どう処置したらよいか。
- 1 1 6【問】一死走者二塁、打者が大きな外野フライを打った。二塁走者は外野手の捕球より早くスタートして三塁に達した。外野手から三塁への送球は悪送球となりスタンドに入った。三塁に達した走者は二塁でのリタッチが早かったので、二塁を踏み直してから正規に本塁へ進んだ。どう処置したらよいか。
- 1 1 7【問】一死走者一塁のとき、打者が右中間に大飛球を打った。一塁走者は二塁を回り三塁に進もうとしたが、右翼手が捕らえたのを見て一塁に戻ろうとした。しかし、右翼手の一塁への送球がスタンドに入ったので、走者は一塁に帰塁（再度の触塁）しないで三塁まで進んだ。どう処置したらよいか。
- 1 1 8【問】一死走者二塁、打者が外野フライを打った。二塁走者はリタッチして三塁に達した。球を持った投手がセットポジションの姿勢に入ったところ、二塁手から「走者のリタッチが早いから球を投げろ」と声をかけられたので二塁に送球し二塁手は塁上でアピールした。ボークかアピールか。
- 1 1 9【問】雨の中で試合を続行中、一死走者三塁で、打者は左翼へフライを打った。三塁走者はリタッチして本塁を踏んだ。このとき雨が極端に激しくなったので、審判員は『タイム』を宣告した。ところが守備側からタイム中にもかかわらず三塁走者のリタッチが早いというアピールがあった。審判員はどうしたらよいか。
- 1 2 0【問】二死走者一塁、打者が右中間を抜く安打を打った。打者は三塁を過ぎ、さらに本塁を狙ったが外野手からの返球で三死となった。打者走者が本塁で三死となったので守備側の投手および内野手が全員ベンチに引き上げた後、中堅手が投手板付近にあった球を持って二塁上でアピールした。どう処置したらよいか。
- 1 2 1【問】二死走者一・三塁、打者は長打を打った。一・三塁の走者はそれぞれ本塁を踏み、打者走者は二塁に達したが、一塁走者は二塁も三塁も踏まなかった。守備側から一塁走者の三塁空過に対してアピールがあり、審判員はこれを認めてアウトとした。しかし、再び一塁走者の二塁空過に気付いてアピールした。同一走者に再度のアピールができるか。
- 1 2 2【問】一死走者一塁、打者が三塁打を打った。一塁走者が二塁を空過したので、外野手からの送球を受けた投手はアピールをしようとして二塁に送球した。しかし、二塁手は、三塁の走者のリードが大きかったので三塁に送球したがセーフとなった。三塁手はさらに二塁へ送球しアピールした。どう処置したらよいか。
- 1 2 3【問】打者は三塁打を打ったが二塁を空過していた。投手がセットポジションをとったとき、空過に気付いた二塁手から球を要求されたので、投手は投手板をはずして二塁に送球した。そのとき三塁走者が本塁に走ったので二塁手はアピールせずに本塁に送球したがセーフとなった。その後捕手から二塁に球が送られアピールした。どう処置したらよいか。
- 1 2 4【問】無死満塁、打者がランニング本塁打を打った。ところが二塁と一塁の走者が三塁を空過した。守備側は二人の走者に対してアピールするにはどうしたらよいか。
- 1 2 5【問】無死満塁、打者が三塁打を打った。ところが一塁走者が三塁を空過した。このとき守備側が二塁走者が空過したと誤ってアピールしたので審判員は認めなかった。守備側はどうしたらよいか。
- 1 2 6【問】一死走者二塁、打者がワンバウンドでスタンドに入る二塁打を打った。二塁走者は本塁に進んだ。投手が球を持って投手板についてから、二塁走者は本塁の空過に気が付き本塁の踏み直しに戻った。どう処置したらよいか。
- 1 2 7【問】二死走者三塁、打者が安打し三塁走者が生還した。打者走者は一塁を空過して二塁に進んだが、二塁直前でアウトとなり三死となった。ところが守備側は打者走者の一塁空過に気付いて、一塁手が塁上でアピールしたので審判員は『アウト』を宣告した。攻撃側はいったんアウトとなったのでアピールはできないのではないかと申し出た。どう処置したらよいか。
- 1 2 8【問】一死走者一・三塁、打者が外野フライを打ったので、二走者はそれぞれ進塁したがともにリタッチが早かった。守備側は一塁上でアピールし審判員はこれを認めたので三死となったが、さらに三塁上でアピールした。どう処置したらよいか。

- 【答】ボールデッド中であり、アピールは受け付けられないので審判員は『タイム中だ』と答える。アウトにするには、プレーの再開を待ってアピールしなければならない。（アマチュア内規14）
- 【答】二塁走者の生還は認められる。フライが捕られたあとの悪送球がボールデッドになる個所に入った場合に限って、離塁が早かった走者の踏み直しは許される。（5.02、7.02注1、注2、7.05 i 原注2）
- 【答】プレー再開後、一塁でアピールがあれば走者はアウトとなる。（7.08 d 注、7.05 g、7.10 a、5.02、7.02注1、注2、7.05 i 原注1、原注2）
- 【答】ほかに走者がいる場合、走者のいない塁へ送球しても、審判員が明らかにアピールのための送球であると認めれば、アピールプレーでボークにはならない。（7.10）
- 【答】もし、その日に試合続行が不可能になったときには、たとえタイム中であっても、このアピールを受けることとする。この場合、審判員は両チームの監督を招いて『アウト』か『セーフ』を宣告し試合の中止を告げなければならない。（7.10 a、連盟特別規則10）
- 【答】投手および内野手が、フェア地域を離れたときにアピール権は消滅する。したがって得点は認められる。（7.10後段）
- 【答】アピールはできる。三塁へのアピールによって第三アウトが成立した後でも、このアウトよりもほかに有利なアピールがあれば、同一走者であっても先の第三アウトと置き換えることができる。したがって二塁でのアピールが認められればフォースアウトとなるから無得点である。（7.10後段、4.09 a（2））
- 【答】投手は投手板につく前の二塁送球であればアピール権は残る。（7.10後段注1関連）
- 【答】いったん投手板に触れてからのアピールの送球を二塁手がアピールしないで本塁に送球すれば、二塁のアピール権は消滅する。（7.10後段注1）
- 【答】二走者が空過したことを明示してアピールすれば二走者ともアウトになる。（7.10後段注3）
- 【答】一つの塁を二人以上の走者が通過したときは、その塁を通過した走者の数までアピールを繰り返して行うことができる。（7.10後段注3）
- 【答】ボールデッドのときは投手がボールを持って投手板につけば本塁を踏み直すことはできない。したがって試合再開後アピールがあればアウトになる。（7.10 b 注3）
- 【答】アピールに限り許される。したがって第四アウトになるが、二塁直前での第三アウトと置き換えられるので得点は認められない。（7.10後段、4.09付記（1））
- 【答】審判員が三塁でのアピールを認めれば、三塁走者はアウトになるから得点とはならない。（7.10後段）

1 2 9 【問】打者が三塁横へファウルフライを打ち上げた。三塁手はコーチボックスにいたベースコーチに妨げられたため、フライを捕ることができなかった。どう処置したらよいか。

【答】審判員は、ベースコーチが場所を譲っておれば捕らえることができたと判断した場合は、打者をアウトにする。(7.11)

1 3 0 【問】打者が攻撃側ベンチ前にフライを打ち上げた。次打者席にいた打者は場所を譲ったが、バットを置き忘れた。フライを捕らえようとした捕手は、そのバットにつまづいてフライを捕球することができなかった。どう処置したらよいか。

【答】プレイヤーの取り残したバットが明らかに捕球を妨害したと審判員が判断したときは、守備妨害で打者をアウトにする。(7.11注)

1 3 1 【問】二死満塁のとき、打者が場外本塁打を打った。四人の走者はそれぞれ本塁を踏んだが、打者走者は二塁を空過したのでアピールされアウトになった。得点は何点か。

【答】三点である。(7.12)

1 3 2 【問】一死一・三塁、打者が外野フライを打った。スタートの早かった一塁走者は二塁を過ぎ、外野手が捕球したので二塁を踏まずに一塁へ帰った。三塁走者はリタッチして本塁に入った。守備側は一塁走者が二塁を空過して帰ったとアピールしアウトとなった。得点となるか。

【答】アピールアウト以前に三塁走者がホームインすれば得点は認められる。(7.12)

1 3 3 【問】一死走者三塁、打者が外野にフライを打った。野手はジャグリングしながらも捕球した。三塁走者は野手がジャグリングしている間に三塁ベースをスタートして本塁を踏んだ。捕球した左翼手から三塁へ送球され離塁が早いとアピールがあった。走者はアウトか。

【答】アウトではない。走者は野手が最初にフライに触れた瞬間からスタートしてよい。(7.10 a 原注、2.15原注)

1 3 4 【問】一死走者二塁、打者が左中間にフライを打った。中堅手は球に触れたが取り損ね、地上に触れないうちに左翼手が捕球した。二塁走者は、中堅手がフライに触れたとき二塁をスタートした。この走塁は正しいか。

【答】正しい。走者は中堅手がフライに触れた瞬間からスタートして良い。(7.10 a 原注、2.15原注)

8・00 投手

捕手のサインを見る

1 【問】投手が投手板に触れないでサインを見た。差し支えないか。

【答】投手は投手板に触れてサインを見なければならない。ただし、触れないでみても直接のペナルティはない。(8.01)

2 【問】投手が軸足を投手板に触れ、自由な足を投手板より後方に置いて、両手を合わせてサインを見た。差し支えないか。

【答】差し支えないか(8.01関連)

3 【問】投手がサインを見終わってから、軸足を投手板からはずした。差し支えないか。

【答】差し支えないが、サインを見終わるたびにはずすことは許されない。なお、投手板をはずしたら必ず両手を身体の両側に下ろさなければならない。(8.01原注2)

投球姿勢

4 【問】投手は、どのような投球姿勢をとって打者に投球しなければならないか。

【答】ウィンドアップポジション、またはセットポジションの投球姿勢のうちどちらかで打者に投球しなければならない。どちらの投球姿勢をとるかは投手の自由である。(8.01)

5 【問】二つの投球姿勢の違いは何か。

【答】ウィンドアップポジション - - - - - 軸足を投手板に触れ、自由な足を投手板上か、投手板の後縁とその延長線より後方に置く(8.01 a)

セットポジション - - - - - 軸足を投手板に触れ、自由な足を投手板より前方に置き、ボールを両手で保持し完全に動作を停止する。(8.01 b)

6 【問】投手は正規の投球姿勢をとるとき、軸足は投手板に触れて置きさえすればよいか。

【答】ウィンドアップポジションの場合でも、セットポジションの場合でも、軸足は全部を投手板の上に置くか、軸足の側面を投手板の両横にはみ出さないように、ぴったり投手板の前縁に触れて置かなければならない。(8.01 a、b、投球姿勢の図参照)

7 【問】三塁に走者のいるとき明らかにウィンドアップポジションをとった投手が、投手板に触れたまま自由な足を投手板より前方に移してセットポジションをとった。差し支えないか。

【答】ボークとなる。三塁走者には本塁が与えられる。(8.01 a 原注 2)

8 【問】投手がセットポジションをとるにはどのようにしたらよいか。

【答】片手を下に降ろして身体の横につけた姿勢から、中断することなく一連の動作で(1)球を両手で身体の前方で保持し、(2)完全に動作を静止しなければならない。この静止した姿勢からでなければ打者に投球することができない。(8.01 b 原注)

9 【問】前問で、セットポジションをとるとき、ストレッチをしなければならないか。

【答】必ずしもストレッチをする必要はない。しかし、一度ストレッチをしたら、打者に投球する前に、必ずセットポジションを完成しなければならない。つまりストレッチに引き続いて球を両手で身体の前方で保持し、動作を完全に静止する。(8.01 b、原注)

1 0 【問】セットポジションの姿勢をとった投手がストレッチを中断した。差し支えないか。

【答】走者のいるときはボークとなる。ただしストレッチの途中から塁の方向に踏み出して送球することは差し支えない。(8.01 b、注2)

1 1 【問】投手がセットポジションをとるとき、身体の前面なら、どこで球を両手で保持しても良いか。

【答】身体の前面ならどこで両手を合わせてもよい。しかしいったん保持して止めたら、その止めた個所を移動させてはならない。(8.01 b、注2)

1 2 【問】走者のいるとき、投手がセットポジションで静止してから肩を動かした。どう判定されるか。

【答】ボークとなる。静止してからは首以外は動かしてはならない。(8.01 b、注2)

投球動作

1 3 【問】投手が振りかぶりながら投手板に触れて打者に投球した。差し支えないか。

【答】反則投球となる。windアップポジションでは、軸足を正しく投手板に触れてから投球に関連する動作を起こさなければならない。投手が投手板にふれないで投球に関連する動作をすれば、走者のいるときはボークとなる。(8.05 g、2.38)

1 4 【問】走者三塁、投手が自由な足を止め、三塁走者を見てから打者に投球した。差し支えないか。

【答】投球動作を一時中断したことになり、ボークが宣告される。(8.01 b注1、8.05 a)

1 5 【問】windアップポジションで投球する投手が、自由な足を一步後方に引いて、さらに投手板の前方に踏み出して打者に投球した。差し支えないか。

【答】windアップポジションで投球する場合は、自由な足をいったん引いてさらに踏み出すことは許される。(8.01 a)

1 6 【問】投手が走者を見ながら、打者を見ないで投球した。どう判定されるか。

【答】ボークが宣告される。投手は打者に正対(顔を打者に向ける)してから投球しなければならない。(8.05 f)

1 7 【問】走者三塁、投手がwindアップポジションして投球しようとしたとき、足がもつれて投球できなかった。ボークになるか。

【答】投手が投球に関連する動作を起こしてから、投球を中止したことになりボークとなる。(8.05 a)

1 8 【問】走者三塁、投手がwindアップを始めたとき、打者が急に打撃姿勢をやめたので投球を中止した。ボークが宣告されるか。

【答】審判員はボークを宣告してはならない。球審はタイムをかけて、『出発点』からやり直させる。なお、打者が打撃姿勢をやめても投球した場合は、正規にカウントする。(6.02 b原注)

1 9 【問】走者一塁、投手が投球動作を始めたとき、攻撃側のベンチから大声で『タイム』と叫んだので投球を中止した。ボークになるか。

【答】球審は、ボークとしないで『タイム』をかけ、攻撃側のベンチに警告を与える。警告したにもかかわらず違反を繰り返した場合は、その違反者を退場させる。(4.06 a (3)、ペナルティ)

投球

2 0 【問】投手がいったん軸足を投手板からはずし、すぐ投手板に触れて投球した。差し支えないか。

【答】クイックピッチで反則投球となる。クイックピッチは危険であるから審判員は、このような行為は許してはならない。(8.01原注、8.05 e原注)

2 1 【問】走者のいないとき、捕手からの返球を受けた投手が、2 0 秒を経過したが投球しなかった。どう処置されるか。

【答】球審はボークを宣告する。ただし、走者のいるときは、このペナルティはない。(8.04)

2 2 【問】投手が投球し損じて球が転々とした。どう判定されるか。

【答】球がファウルラインを越えたら投球としてボールが宣告される。ファウルラインを越えなければ投球とはみなされない。走者のいるときは、球が投手の手から落ちたときボークが宣告される。(8.01 d、原注、8.05 k)

2 3 【問】投手が投手板に触れているとき偶然落球した。どう処置されるか。

【答】走者がいるときは、故意、偶然を問わずボークが宣告される。(8.05 k)

軸足を投手板からはずす

2 4 【問】投手は軸足を、いつ、投手板からはずしたらよいか。

【答】投球に関する動作を起こす前なら、いつでも、軸足を投手板からはずしてもよい。(8.01 a原注2、b注4)

2 5 【問】走者のいるとき、投手が軸足を投手板より後方にはずして塁に送球した。差し支えないか。

【答】差し支えない。軸足を投手板の後縁とその延長戦より後方にはずした場合は、内野手とみなされるから塁に送球しても、投げるまねをしても差し支えない。ただし、軸足を投手板の横または投手板より前方にはずした場合はボークとなる。(8.01 b、注4)

2 6 【問】走者のいるとき、投手板上で両手を合わせた投手が、両手を離してから軸足を投手板より後方にはずした。差し支えないか。

【答】両手を合わせた投手が投手板上で球から一方の手を離せば、ボークとなる。軸足をはずす場合は、両手を合わせたまま投手板からはずさなければならない。(8.01 b注5、8.05 j)

2 7 【問】両手を合わせたまま軸足を投手板からはずした投手が、両手を合わせたまま再び投手板に触れた。差し支えないか。

【答】ボークとなる。軸足を投手板からはずしたら、必ず両手を離して身体の両側に下ろさなければならない。(8.01原注、a原注2、b注5)

塁への送球

2 8 【問】走者のいるとき、投手は軸足を投手板に触れたまま塁へ送球してもよいか。

【答】windアップポジションでも、セットポジションでも、投球に関連する動作を起こす前なら、投手板に触れたまま、走者のいる塁に送球しても差し支えない。しかし、走者のいない塁へは送球することも、投げるまねをすることも許されない。違反すればボークとなる。(8.01 c、8.05 d)

2 9 【問】 走者満塁、ワインドアップポジションをとった右投手が、ボールを両手で身体の前方に保持し一塁に踏み出して送球した。差し支えないか。

3 0 【問】 前問で、投球動作と関連なく単にボールを保持しただけの右投手が、三塁へ踏み出して送球した。差し支えないか。

3 1 【問】 投手板に触れている投手が、自由な足を踏み出さずに塁に送球した。差し支えないか。

3 2 【問】 投手板に触れている投手が、塁に送球してからその塁の方向へ踏み出した。差し支えないか。

3 3 【問】 投手板に触れている投手が、自由な足を上げただけで元の位置に下ろして塁へ送球した。差し支えないか。

3 4 【問】 走者一塁、右投手が、軸足を投手板上で踏み換えて一塁へ送球した。差し支えないか。

3 5 【問】 走者一塁、投手板に触れている左投手が、自由な足を振って投手板の後縁を越えたが一塁へ送球した。ボークとなるか。

3 6 【問】 投手板に触れている投手が走者のいる塁の方向へ踏み出したら、必ずその塁へ送球しなければならないか。

3 7 【問】 走者一塁、投手板に触れて両手を合わせている投手が、上体を先に回してから踏み出して一塁へ送球した。差し支えないか。

3 8 【問】 投手板に触れている投手が、投手板に触れたまま連続して踏み出して送球した。
(a) 投手が三塁へ踏み出して投げるまねだけで送球しなかったとき、一塁走者が離塁したので、投手板にふれたまま一塁へ踏み出して送球した場合
(b) 投手が二塁、または三塁へ踏み出しただけで、投手板に触れたまま、すぐぐるりと回って一塁へ踏み出して送球した場合。

3 9 【問】 投手が一塁を見たとき、一塁走者が二盗したので、投手板に触れたままぐるりと回って二塁へ送球した。差し支えないか。

4 0 【問】 投手が二塁へ踏み出して投げようとしたとき二塁走者が三塁へ走ったので、投手板についたまま三塁へ踏み出して送球した。差し支えないか。

投手の特例

4 1 【問】 投手板に触れている投手が、一塁に送球したが悪送球となってスタンドに入った。どう処置されるか。

4 2 【問】 投手が軸足を投手板の横にはずしたのでボークが宣告され、直後の一塁送球が悪送球となってスタンドに入ったどう処置されるか。

4 3 【問】 投手が軸足を投手板より後方にはずして一塁に送球したが、悪送球となってスタンドに入った。どう処置されるか。

4 4 【問】 投手の打者への投球を捕手が後逸して、球がベンチに入った。どう処置されるか。

投球がマスクに挟まる

4 5 【問】 投球が球審または捕手のマスクに挟まった場合はどう処理されるか。

【答】 単にボールを両手で身体の前方で保持しただけの場合は差し支えないが、審判員が投球に関連する動作でボールを保持したと認めた場合は、投球の中止でボークとなる。(8.01 a、アマチュア野球内規15)

【答】 左投手が一塁、右投手が三塁へ送球することは、投球に関連した足の動きをして塁に送球したとみなされるため、ボークとなる。(8.01 a、原注2、アマチュア野球内規15)

【答】 ボークとなる。投手板に触れている投手が塁へ送球するときは、自由な足を必ずその塁の方向へ直接踏み出さなければならない。(8.01 c、8.05 c)

【答】 ボークとなる。自由な足を直接その塁の方向へ踏み出してから送球しなければならない。(8.01 c 原注、8.05 c)

【答】 塁の方向へ踏み出したことにならないから、ボークとなる。(8.05 c 原注)

【答】 軸足の踏み替えと、送球が一挙動の場合は差し支えない。しかし、軸足を踏み換えた後に一塁へ送球した場合はボークとなる。(8.01 c 注)

【答】 ボークとなる。自由な足を振って軸足と交差したら、打者に投球しなければならない。したがって自由な足が投手板の後縁を越えれば、当然打者に投球しなければならないから、一塁へ送球すれば投球を中止したことになる。(8.05 a 原注)

【答】 一塁へは必ず送球しなければならない。一塁への送球を中止すればボークとなる。二塁と三塁へは直接ステップすれば偽投は許される。(8.05 b 注)

【答】 上体を先に回してから踏み出せば、ボークとなる。(8.05 c 原注)

【答】
(a) 三塁へ偽投した勢いで軸足が投手板からはずれた(軸足が投手板外の地面についていること)場合は、足の位置に関係なく、そのまま振り向いて一塁へ送球することができるが、投げるまねだけで軸足がはずれない場合は、投手板の後方へ軸足をはずしてからでなければ、一塁へ送球することはできない。(8.05 c 原注)
(b) 二塁または三塁への偽投はよいが連続動作で一塁へ投げるには、軸足を投手板の後方にはずしてなければならぬ。(8.05 c 原注)

【答】 差し支えない。二塁への送球は、必要なプレーのための送球であるから、例え一塁走者が途中から一塁へ戻っても、走者のいない塁へ送球したことにはならない。(8.05 d 問答)

【答】 三塁への送球は必要なプレーのための送球であるから、差し支えない。(8.05 d 関連)

【答】 走者に一個の塁が与えられる。ただし、一塁手を通過して再び野手に触れてボールデッドの個所に入った場合は、走者が投球当時占有していた塁を基準として、走者に二個の塁が与えられる。(7.05 h、付記)

【答】 ボークで、走者に一個の塁が与えられる。(7.05 h 関連)

【答】 走者に二個の塁が与えられる。投手が軸足を投手板より後方にはずせば内野手とみなされるから、投手の特例は認められない。(8.01 e 原注、7.05 g)

【答】 走者に一個の塁が与えられる。したがって四球目、または三振目の投球だった場合は、打者に一塁が与えられるだけである。しかし、投球が捕手を通過して、捕手または他の野手に再び触れてボールデッドの個所に入った場合は、投手の投球当時占有していた塁を基準として走者に二個の塁が与えられる。(7.05 h、付記、7.05 i)

【答】 ボールデッドとなり、走者は一個の塁が与えられる。四球目の投球がマスクに挟まった場合は、打者に一塁が与えられる。また、三振目の投球の場合も打者に一塁が与えられる。しかし、無死、または一死で走者一塁(一・二塁、一・三塁、満塁)の場合は、自動的に三振アウトとなる。(7.05 i、6.05 c 注)

投手の禁止事項

4 6【問】投手板の近くで、投手が投球する方の手に唾液をつけた。差し支えないか。

4 7【問】投手が異物をつけた球を投球した。どう処置されるか。

4 8【問】投手が打者を狙って投球した。どう処置されるか。

4 9【問】打者が打者席に入っているのに、投手が捕手以外の野手に送球した。どう処置されるか。

5 0【問】走者がいるとき投手が軸足を投手板より後方にはずして、走者のいない塁へ送球した。差し支えないか。

投手の準備投球数

5 1【問】投手は各回の始め、何球くらい準備投球が許されるか

投手の交代

5 2【問】投手は、いつ、交代できるのか。

5 3【問】一回の表、投手が第一打者に三球続けてボールを投げたので、守備側の監督が投手の交代を申し出た。許されるか。

5 4【問】救援投手が出て打者に一球投げたとき、代打者が出たので守備側の監督が投手の交代を申し出た。許されるか。

5 5【問】二死満塁、救援投手が出て、打者に投球する前に一塁に送球して、一塁走者をアウトにし、攻守交代となった。次の回その救援投手は続投しなければならないか。

5 6【問】救援投手が出て、打者に一球も投げないうちに、急に降雨が激しくなって試合が一時中断されたが、天候が回復して試合が再開されたとき違う投手が登板した。どう処置されるか。

5 7【問】前問で、試合が中止となって特別継続試合になった場合、その特別継続試合には、投球義務の終了していない救援投手は、先発しなければならないか。

反則投球

5 8【問】走者のいないとき、投手が反則投球した場合はどう処置されるか。

5 9【問】走者のいないとき、打者が反則投球を打って、安打、失策などで一塁に生きた場合は、どうなるか。

6 0【問】走者がいないとき、反則投球が避けた打者に触れた場合はどうなるか。

6 1【問】走者がいるとき、投手が反則投球した場合はどう処置されるか。

6 2【問】一死走者二・三塁、投手がセットポジションをとり静止しないで投球した。打者がこの球を打って遊ゴロとなったが、遊撃手がファンブルして何処へも投げなかった。打者は一塁に達し三塁走者も本塁に達したが、二塁走者はそのまま二塁にいた。どう処置されるか。

【答】差し支えない。「軟式野球」では、手を口につけることや、球またはグラブに唾液をつけること、球をグラブ、ユニフォームなどでこすることは特に影響がないので許されている。(8.02 a 関連、連盟特別規則11)

【答】「連盟」では、ペナルティを採用しないで、投手にその都度警告を発し、ボールを交換させる。なお、このような行為が繰り返された場合はその投手を試合から除く。また、球に異物をつけることのほか、どんな方法であっても球に傷をつけることも禁止されている。(8.02 a (2)、連盟特別規則11)

【答】球審が、打者を狙って投球したと認めたときは、投手と守備側監督にこのような投球を繰り返したときは、投手を退場させる旨の警告を発し、このような投球が繰り返された場合はその投手を試合から除く。なお、同時に攻撃側の監督にも警告しておく。(8.02 d)

【答】捕手以外の野手に送球することは許されない。その投手に警告を発し、なお、このような行為が繰り返された場合は遅延行為としてボールを宣告する。(8.02 c、アマチュア野球内規17)

【答】例え軸足をはずしても、走者のいない塁はもとより塁に入ろうとしない野手に送球した場合は、遅延行為とみなしボークを課す。(8.05 h、アマチュア野球内規18)

【答】投手は各回の始め、八球以内(一分間以内に限る)の投球が許される。なお、救援投手は救援したとき、八球以内(一分間以内に限る)の投球が許されるが、突発事故でウォームアップなしで救援した場合は、必要と思われる数の投球が許される。「連盟」では、二回以後の準備投球数を四球以内としているが、季節または状況によって考慮することが望ましいと定められている。(8.03、連盟取り決め事項10(2))

【答】ボールデッド中なら、いつでも交代が許される。しかし、先発投手及び救援投手には投球義務の規定があり、その投球義務が終了するまで交代は許さない。しかし、病気、負傷などで投球が不可能になったと球審が認めた場合に限り、投球義務が終了していても交代が許される。(3.03、3.05 a、b)

【答】交代は許されない。先発投手は、第一打者またはその代打者がアウトになるか、または一塁に達するまで投球する義務がある。その義務が終了してから交代させなければならない。(3.05 a)

【答】交代は許されない。救援投手は、そのときの打者または代打者がアウトになるか、または一塁に達するか、あるいは塁上の走者をアウトにして攻守交代になるまで投球する義務があるから、その義務が終了するまで交代は許されない。(3.05 b、原注)

【答】続投しなくても良い。その救援投手は打者に一球も投げてはいないが、攻守が交代になれば投球義務がなくなる。(3.05 b)

【答】投球義務の終了しない救援投手は、続行試合に登板しなければならない。球審は、新しく出てきた投手を退けて、正規の投手を試合に戻し、その義務が終了するまで投球させなければならない。しかし、万一球審が気付かないままに新しく出てきた投手が打者に一球投げた場合は、投手の交代は正当化される。(3.05 b、c)

【答】その日のうちに引き続き試合を行う場合は、先発しなければならない。日を改めて試合を行う場合は、先発しなくても良い。しかし、特別継続試合に出場しない選手は他の選手と交代したものと見なされる。(4.12 d 原注関連)

【答】投球にボールが宣告される。球審は、投手に反則投球である旨を指摘する。(8.01 d 注、2.38)

【答】反則投球は消滅し、プレーはそのまま続けられる。(8.01 d)

【答】死球が宣告され、ボールデッドとなり、打者に一塁が与えられる。(8.01 d、6.08 b)

【答】ボークが宣告されて、走者に一個の塁が与えられる。ただし、打者が安打、失策、四死球、その他で一塁に達し、塁上のすべての走者が、少なくとも一個の塁を進塁した場合は、プレーはそのまま続けられる。(8.05 e、8.05ペナルティ)

【答】打者は一塁に生きたが、二塁走者が進塁しなかったので、ボークが宣告される。三塁走者の得点は認められ、二塁走者は三塁へ、打者は前のカウント(ノーカウント)で打ち直しとなる。(8.05 m、8.05ペナルティ)

6 3 【問】前問で二塁走者が三進した場合はどうなるか。

6 4 【問】二死走者一・二塁、打者が反則投球を安打して一塁に達し、二塁走者は本塁に達したが、一塁走者は二塁を空過して三進したので、二塁空過をアピールされて三死となった。どう処置されるか。

球を持たない投手

6 5 【問】走者のいるとき、球を持たない投手が投手板に立った。どう処置されるか。

故意四球と投手

6 6 【問】守備側が満塁策をとったとき、片足を捕手席の外に出して立っている捕手に投球した。どう処置されるか。

ボーク

6 7 【問】ボークはどのような場合に宣告されるか。また、どのようなペナルティが課せられるか。

6 8 【問】走者一塁、投手が軸足を投手板の前にはずした（ボーク）送球が、一塁への悪送球となって、ファウル地域を転々としていたので、一塁走者は二塁を越えて、さらに三塁まで進塁した。このとき、守備側から「一塁塁審がボークを宣告したから三進した走者を二塁にもどすように」と申し出があった。どう処置されるか。

監督またはコーチが投手の所へ行く制限

6 9 【問】投手が乱調になったので監督がマウンドまで行ってアドバイスをして戻ったが、投手がボールを連発したので監督が再び投手のところへ行った。差し支えないか。

7 0 【問】走者のいないとき、投手が反則投球をした。打者は片足をボックスから完全に出して反則打球をした。どう処置したらよいか。

7 1 【問】走者がいるとき、投手板についている投手に捕手がブロックサインを出した。それを受けた投手はうなずいて投球をした。ボークではないか。

7 2 【問】前問で、捕手のブロックサインを、投手がブロックサインで受けたときはどうなるか。

7 3 【問】野手が投手にブロックサインを出したときは、どうなるか。

【答】打者が一塁に生き、すべての走者が一個進塁したので、ボークとは関係なくプレーはそのまま続けられる。(8.05m、8.05ペナルティ)

【答】塁を空過してアピールでアウトになっても、一個の塁を進んだことになるから、ボークとは関係なくプレーは有効になり攻守交代となる。なお、一塁走者は二塁でのフォースアウトで三死となるから、得点は認められない。(8.05ペナルティ付記2、4.09 a 付記(2))

【答】ボークが宣告される。球を持たないで投手板をまたいでも、投手板を離れて投球するまねをした場合も、ボークが宣告される。(8.05 i)「連盟」では、隠し球のとき、球を持たない投手が投手板のすぐ近くでサインを見るような動作をした場合は、隠し球は無効としボークが宣告される。(連盟特別規則12)

【答】投球が投手の手を離れてから捕手席を出ることは差し支えないが、その打者に対して故意の四球が企図されたことが明らかな場合には、投手が球を離す前に、片足でも捕手席の外に出した場合はボークが課せられる。(8.05-1、4.03 a)

故意四球と捕手の位置(アマチュア野球内規4)

審判員が『故意四球』が企図されたと判断する場合とは、捕手があらかじめ捕手席で立ち上がり投手の投球を待つ姿勢をとり、しかも誰が見ても作戦上その打者を敬遠するという守備側の意図が明らかな場合に限られる。たとえば三塁に走者がいて、スクイズプレイを防ぐためのウエストボールを投げさせようとして、捕手が腰をかめたままで投球を待つようなときには、片足を捕手席の外に出しても、投手にボークを課さないものとする。

【答】走者のいる場合、投手が反則投球するか、塁への送球その他で規則に違反したとき、ボークが宣告される。(8.05 a ~ m、2.38)

ペナルティ

ボールデッドとなり、走者に一個の安全進塁権が与えられる。ただし、打者が打ったり四死球となった場合は、結果によってはペナルティは課せられない。(8.05ペナルティ)

【答】たとえボークの宣告があっても、一塁走者の三塁進塁は認められる。ボークのペナルティが通常のプレーより有利になることはない。投手がボークをして、しかも塁または本塁に悪投・送球(捕手または野手のミスプレイも含む)した場合は、走者はボークによって与えられる塁より更に進められると思われる塁まで進塁することは自由である。なお、一個の塁まではボークのペナルティは生きていますが、一個の塁を越えてからは、ボールインプレーとなってプレーはそのまま続けられる。つまり、一個塁を越えてからプレーがあれば、アウトはアウト、セーフはセーフということである。(8.05ペナルティ付記1)

【答】同一イニングにその投手のところへ二度行ったので、その投手は自動的に交代させなければならない。なお連盟では、他の守備位置に付くことが許される。(8.06、連盟特別規則13) 監督またはコーチが、同一イニングに、同一投手のところへ二度行くか、行ったとみなされた場合(伝令を使うか、プレーヤーに指示を与えてそのまま投手のところへ行かせた場合)は、その投手は自答的に交代することになる。なお救援投手の場合は投球義務を終了してから交代することになる。(3.05) 「連盟」では、監督またはコーチがプレーヤーとして試合に出ている場合は、投手のところへ行く制限はないが、協議があまり長引けば注意し、さらに長引けば一回投手のところへ行ったことに数える。なお、監督またはコーチが、投手のところへ一度行くか、行ったとみなしたときは、球審は、あと一度行けば交代になる旨を通告する。もし、一度目に通告しなかった場合は、二度目に行こうとしたときその旨を監督に知らせる。(8.06、連盟特別規則13)

【答】反則投球と反則打球の二つの規則違反が重なった。(どちらもボールデッド)ときは、先に行われた反則投球をとる。したがって、ボールがカウントされ打者は打ち直す。(8.01 d、6.06 a、2.38)

【答】ボークではない。投手がブロックサインを見ただけの場合は、ペナルティはない。(8.05 h)

【答】ボークである。また、投手が投手板をはずして同行為をしても、ボークである。(8.05 h)

【答】投手が自らブロックサインを出したり、野手からのサインをブロックサインで受け答えをしたときは、ボークとなる。(8.05 h)